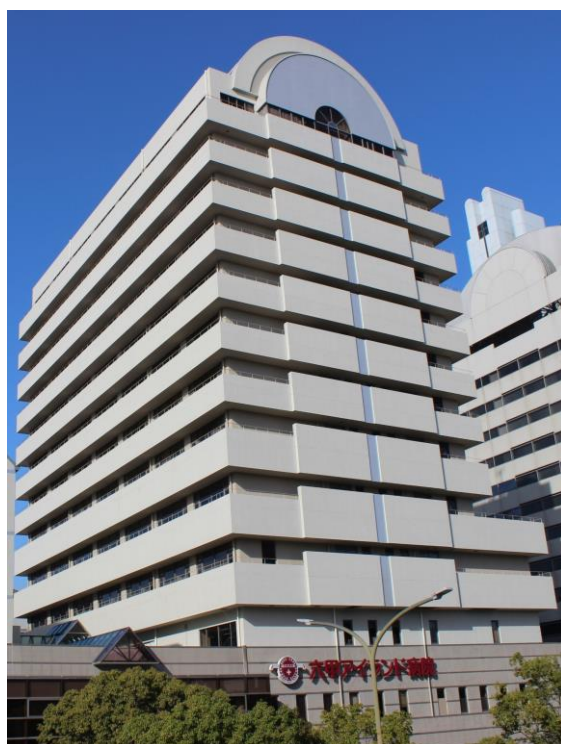




公益財団法人 甲南会

2022年度 事業報告書及び附属明細書



第1. 法人の概要

1. 基本理念	2
2. 理事長挨拶	2
3. 甲南会の沿革	2
4. 組織・事業体系	3
5. 役員等一覧	3
6. 評議員会・理事会の開催	4
7. 病床数、標榜科目、職員数	5

第2. 各施設の概要

1. 甲南医療センター	6
2. 六甲アイランド甲南病院	21
3. 甲南加古川病院	24
4. 甲南介護老人保健施設	27
5. 甲南訪問看護ステーション	29
6. 甲南居宅介護支援事業所	30
7. 事務局	31

第3. 事業の概要

1. 新型コロナウイルス感染症への対応	32
2. 東灘次世代医療人材育成コンソーシアム	34
3. 公益目的事業の概要	35
4. 2022年度決算概況	54
5. 附属明細書	56

第1. 法人の概要

1. 基本理念

人類愛の精神に基づき、悩める病人のための病院たらん

創業者 平生鈆三郎



2. 理事長挨拶



公益財団法人甲南会 代表理事
具 英成
President Eisei Gu

公益財団法人甲南会の2022年度の事業概要(2022年4月1日から2023年3月31日まで)をご報告申し上げるにあたり、日頃皆様からの温かいご支援、ご理解に対し、厚く御礼申し上げます。

2022年度は、2022年3月からパンデミックを起こしたCOVID-19の影響が続くなか、地域医療に貢献するため重点医療機関としての使命と地域の救急医療への注力を最重要課題として、引き続き全職員による的確な感染対策と救急、入院・外来患者への献身的な対応により、医療収入は191億円(前年度比5億円増)を計上することができました。一方、工事期間7年間に要した甲南医療センター増改築工事が2022年7月末で完了したことによる減価償却費の増加、光熱費の高騰などの影響がありましたが、経常収支はコロナ関連補助金の受入もあり22億円(前年度比13億円増)となりました。

医療環境を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の2類相当から5類への移行、第8次医療計画の開始、医師の働き方改革の施行等大きく変化しています。しかしながら、そのような環境下においても、公益財団法人甲南会は、甲南医療センターを法人の中核施設に据え、引き続き、地域医療支援病院として、地域の皆様の“心の深くに届く高質な医療”を全職員一丸となって実践するとともにその責務を果たしていく所存です。

今後も格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月

公益財団法人甲南会
理事長 具 英成

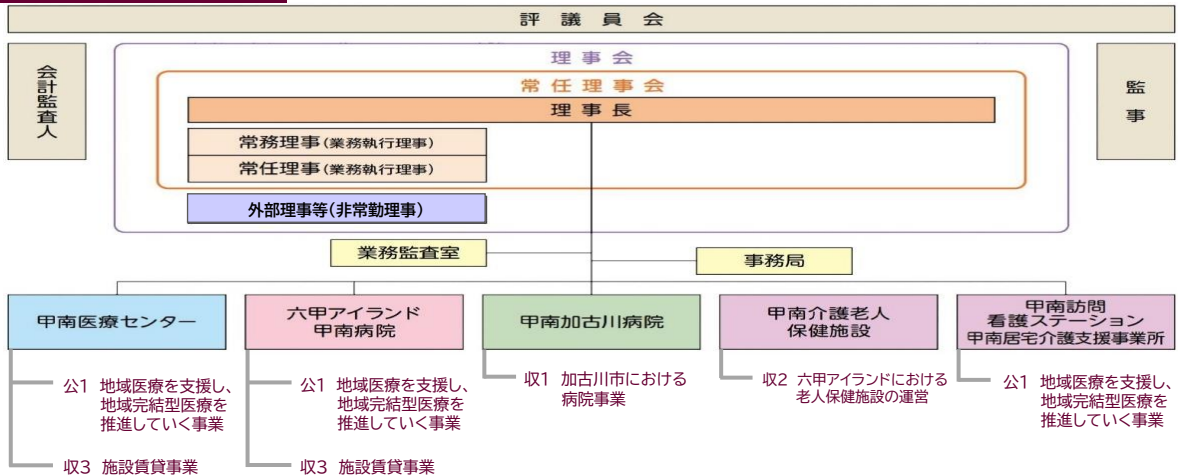
3. 甲南会の沿革

- | | |
|-------------|---|
| 1934年(昭和9) | 6月17日、甲南病院開院、看護婦養成所開設 |
| 1945年(昭和20) | 第二次世界大戦終戦 11月、創業者平生鈆三郎死去(享年80歳)
甲南高等学校、甲南初等学校、甲南病院による合同葬を執り行う |
| 1955年(昭和30) | 准看護婦養成所発足 |
| 1970年(昭和45) | 甲南病院附属高等看護学校開校 |
| 1974年(昭和49) | 労働組合結成 |
| 1992年(平成4) | 4月、六甲アイランド病院開院 法人事務局を設置 |
| 1995年(平成7) | 1月17日、阪神・淡路大震災で被災 |
| 2000年(平成12) | 国立加古川病院の移譲により、12月加古川病院開院 |
| 2001年(平成13) | 10月、甲南訪問看護ステーション開設 11月、甲南介護老人
保健施設及び甲南居宅介護支援事業所を開設 |
| 2008年(平成20) | 看護専門学校を閉校し、甲南女子大学へ継承 |
| 2012年(平成24) | 「財団法人」から「一般財団法人」へ改称 |
| 2013年(平成25) | 新甲南病院建設事業計画(Konan事業ビジョン2020)開始 |
| 2018年(平成30) | 11月、甲南大学・甲南女子大学・神戸薬科大学・東灘区役所と共同し
医療人材育成を目的とした『東灘次世代医療人材育成コンソーシアム』を設立 |
| 2019年(令和元) | 甲南会新キャラクター「ドクターこうにゃあ」と「MINAMIちゃん」が誕生 |
| 2020年(令和2) | 4月、兵庫県より公益財団法人として認定を受ける
運営法人名を『一般財団法人甲南会』から「公益財団法人甲南会」に改称 |
| 2022年(令和4) | 7月、新甲南病院建設事業計画(Konan事業ビジョン2020)完了 |



マスコットキャラクター
ドクターこうにゃあとMINAMIちゃん

4. 組織・事業体系



5. 役員等一覧

※2023年3月末日現在

役 職	氏 名	就任日	略 歴
評議員	山田 積	2013(平成25)年6月18日	新晃工業(株)取締役
評議員	上塚 一也	2013(平成25)年6月18日	(株)イチケン 元代表取締役
評議員	平野 欽一郎	2014(平成26)年6月20日	学校法人甲南学園 専務理事
評議員	下村 雅一	2015(平成27)年6月23日	学校法人甲南女子学園 常務理事
評議員	甲賀 淳	2016(平成28)年6月28日	東京海上日動火災保険 元広島支店長
評議員	廣岡 俊司	2016(平成28)年6月28日	一般財団法人住吉学園 専務理事
評議員	土佐 博一	2019(令和元)年6月26日	学校法人甲南学園甲南小学校 事務長
代表理事	具 英成	理事:2017(平成29)年6月29日 代表理事:2020(令和2)年12月13日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 院長
常務理事	三枝 康宏	理事:2015(平成27)年6月23日 常務理事:2020(令和2)年12月13日	公益財団法人甲南会 六甲アイランド甲南病院 院長
常任理事	黒田 浩光	2017(平成29)年6月29日	公益財団法人甲南会 甲南加古川病院 院長
常任理事	山田 浩幸	2019(平成31)年6月26日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 院長代行
常任理事	宮下 勝	2020(令和2)年6月24日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 参事
常任理事	堀口 美由紀	2022(令和4)年6月22日	公益財団法人甲南会 甲南医療センター 統轄看護部長
理 事	上村 多恵子	2012(平成24)年4月1日 ※設立時	京南倉庫(株) 代表取締役社長 京南物流(株) 代表取締役社長
理 事	竹田 統	2015(平成27)年6月23日	一般財団法人住吉学園 理事長
理 事	三浦 公嗣	2017(平成29)年6月29日	学校法人藤田学園 顧問 藤田医科大学教授 社会医学担当
理 事	大高 裕司	2019(平成31)年6月26日	京阪神興業(株)取締役社長
理 事	廣田 省三	2020(令和2)年6月24日	医療法人貝山仁済会 理事長 医療法人泉仁会 理事長 医療法人明翔会 理事長
理 事	秋元 典子	2022(令和4)年6月22日	学校法人甲南女子学園 甲南女子大学 学長
監 事	陰地 弘和	2012(平成24)年4月1日 ※設立時	陰地会計事務所 代表
役 職	氏 名	就任日	所在地
会計監査人	RSM清和監査法人	2013(平成25)年6月18日	神戸市中央区海岸通8番神港ビルディング2

6. 評議員会・理事会の開催

(1) 評議員会

ア 2022年度定時評議員会 2022年6月22日開催

第1号議案 評議員に関する件
第2号議案 理事・監事に関する件
第3号議案 2021年度計算書類及び附属明細書承認の件

(2) 理事会

ア 2022年度第1回理事会 2022年6月7日開催

第1号議案 評議員に関する件(評議員会決議事項)
第2号議案 理事・監事に関する件(評議員会決議事項)
第3号議案 人事に関する件
第4号議案 2021年度事業報告書及び附属明細書承認の件
第5号議案 2021年度計算書類及び附属明細書承認の件(評議員会決議事項)
第6号議案 甲南医療センター工事代金支払いに係わる資金の借入について
第7号議案 2022年度定期昇給の件
第8号議案 2022年度夏期賞与支払いの件
第9号議案 2022年度定時評議員会招集の件

イ 書面理事会 2022年7月19日付提案

第1号議案 2022年度会計監査人報酬に関する件

ウ 書面理事会 2022年7月21日付提案

第1号議案 代表理事選任の件

エ 2022年度第2回理事会 2022年11月16日開催

第1号議案 人事に関する件
第2号議案 2022年度上期収支及びキャッシュフロー状況の件
第3号議案 2022年度冬期賞与支払いの件

オ 書面理事会 2023年1月6日付提案

第1号議案 コミットメントライン契約【極度15億円】のコミット契約延長の件

カ 2022年度第3回理事会 2023年3月22日開催

第1号議案 人事に関する件
第2号議案 経常収支及びキャッシュ・フローの状況報告の件
2022年度(4月～1月分)
第3号議案 2022年度収支見込みの件
第4号議案 2023年度設備投資予算承認の件
第5号議案 2023年度事業計画(収支予算)承認の件

7. 病床数、標榜科目、職員数

2023年3月末日の病床数、標榜科目、職員数は、下表のとおりとなっております。

施設名	届出病床	稼働病床	標榜科目	職員数
甲南医療センター	461	461	循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、リウマチ科、	894 (43)
			消化器内科、内科、脳神経内科、腫瘍・血液内科、	
			緩和ケア内科、放射線科、小児科、皮膚科、精神科、	
			消化器外科、乳腺外科、(心臓血管外科)、	
			呼吸器外科、整形外科、リハビリテーション科、	
			脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、	
			産婦人科、形成外科、麻酔科、歯科・口腔外科、	
			病理診断科、救急科	
六甲アイランド甲南病院	198	198	循環器内科、消化器内科、内科、脳神経内科、	319 (33)
			腎臓内科、放射線科、小児科、皮膚科、神経科、	
			外科、(心臓血管外科)、(呼吸器外科)、整形外科、	
			リハビリテーション科、(脳神経外科)、眼科、	
			耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、(形成外科)、	
			(麻酔科)、歯科・口腔外科	
甲南加古川病院	199	128	内科、循環器内科、脳神経内科、リウマチ科、	184 (23)
			(外科)、整形外科、皮膚科、(眼科)、(耳鼻咽喉科)、	
			リハビリテーション科、放射線科、麻酔科	
甲南介護老人保健施設	—	—	定員:入所80名、通所30名	67 (12)
甲南訪問看護ステーション	—	—	訪問看護、居宅介護支援	17 (1)
事務局	—	—		25 (2)
合計	858	787		1,506 (114)

()診療科は休診中。 ()職員数は非常勤・再掲。

第2. 各施設の概要

1. 甲南医療センター

基本 理念

【理念】

人の手で接する最善の医療を追求し実現します。
やがて創設100年を迎える基幹病院として公益と継続を重視し、
全職員にて新たな歴史を紡ぎ、誇り高き病院を創ります。

【行動指針】

1. 心技一体で心の深くに届く高質の医療を実践します。
2. 不断の救急医療を全職員で全うします。
3. 地域の医療機関、大学、行政との連携を強化し、総合力のある人材を育成し、絶えず進化する医療を構築します。
4. 最新機器を整備し、緑と静穏な療養環境のもと、安心、安全なチーム医療を実現します。
5. 患者・家族の尊厳を守り、個人情報厳守します。

院長 挨拶



具 英成 院長

甲南医療センターは、1934年(昭和9年)に旧甲南病院として創立され、以来、公的医療機関のない神戸市東灘区の地域医療を担い、営利本位に陥らず、全ての患者が名医の治療や手術が受けられる患者本位の医療を追求する病院を目指してまいりました。次の100年に向けてこれからも地域の皆様のご期待に添えるよう、最高の医療を届けるためにどのように変貌したか、引き続きご紹介いたします。

新たな創生を目指して2019年10月にⅠ期工事を完工し、脳神経外科、泌尿器科、循環器内科、小児科、産婦人科などの診療科の充実を図り、380床の急性期病院として移動しました。2022年2月にはⅡ期工事を完工し、461床の急性期病床を有する地域屈指の総合病院として装いを新たにしました。近年、医療では遺伝子工学、AIやロボットなど様々な技術革新が進んでいます。しかし、技術が高度になり時代が変われど、人の手で接する心の深くに届く医療を実践すべく、職員一同が力を合わせ新病院へのご期待に添えるよう臨んでまいります。

神戸市の東部において急性期医療を担う甲南医療センター、回復後日常生活へ戻るための支援を担う六甲アイランド甲南病院、2病院がシームレスに連携して役割分担をさらに強めて、地域の皆様の健康を守ります。2020年度からは公益財団法人として装いを新たに地域医療に邁進しています。

2022年のグランドオープンでは、旧甲南病院発祥の地である鴨子ヶ原に最新最高の設備を備えた新病院が完工しました。このようなハード面の充実とともに、優秀な医療人材を集約し育成することを通じて、地域へのさらなる貢献を目指します。甲南会は心技一体、質の高い医療、人の手で心の深くに届く医療を今後も間断なく実践してまいります。地域の皆様から高い評価が頂けるよう、誇り高き病院創りを進めます。皆様の変わらぬ御支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

特色

東灘区には、公的医療機関がなく、古くから地域医療を旧甲南病院が担っていました。2019年には、甲南医療センターに改称し、急性期医療に特化した施設に生まれ変わり、2022年春には、全ての施設・設備が整い、次の100年に向けた新たな歴史が始まりました。また、ハード面だけでなく、高台立地を凌駕する高度な医療水準と人の手で接する温かい心を兼ね備えた最善の医療を推進し、地域の皆様に最高の医療を実現してまいります。

甲南医療センターは、これからもすべての人に健康と福祉をお届けしながら、住み続けられる街づくりに貢献してまいります。

沿革

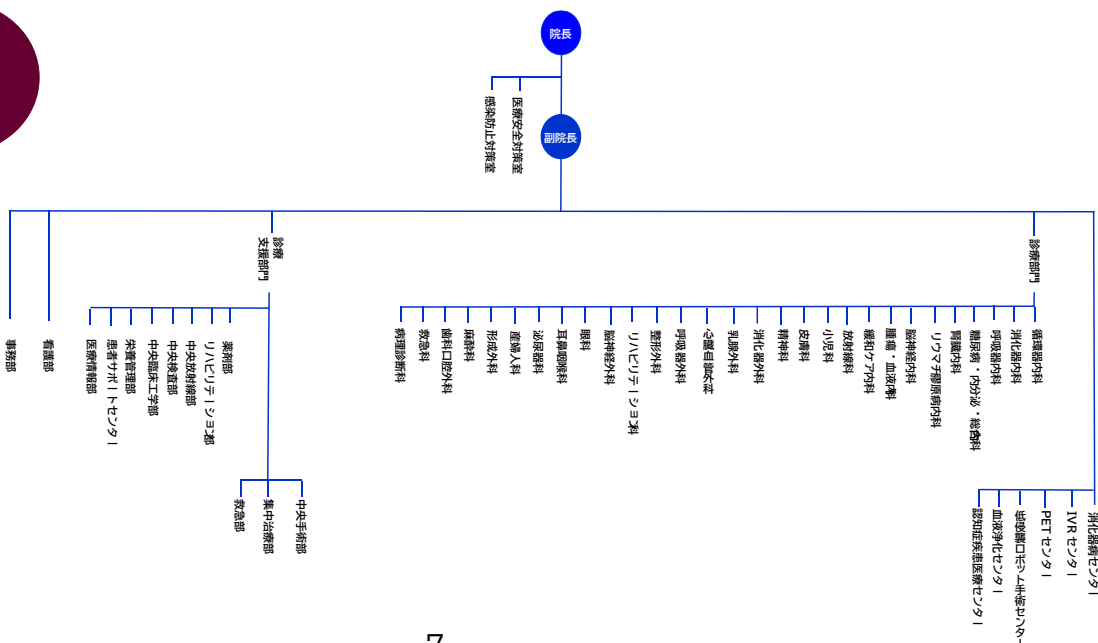
1934年(昭和9)	病院開設(118床)、6月17日に開院式、看護婦養成所開設
1972年(昭和47)	西館増築、病床数277床へ
1979年(昭和54)	神戸市二次救急病院指定
1982年(昭和57)	南館新設、病床数298床へ
1984年(昭和59)	開院50周年記念式典
1987年(昭和62)	東館新設、病床数400床へ
1995年(平成7)	阪神・淡路大震災で被災
2004年(平成16)	医師臨床研修病院指定
2006年(平成18)	病院機能評価(Ver.4)認定
2009年(平成21)	DPC適用病院
2011年(平成23)	病院機能評価(Ver.6)認定
2013年(平成25)	新甲南病院建設事業(Konan事業ビジョン2020)開始
2015年(平成27)	緩和ケア病棟設置、病床数380床へ
2016年(平成28)	病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)認定
2019年(令和元年)	甲南医療センター建設Ⅰ期工事完成
2020年(令和2)	地域医療支援病院認可
2021年(令和3)	病院機能評価(3rdG:Ver2.0)認定
2022年(令和4)	甲南医療センター建設Ⅱ期工事完成、病床数461床へ

概要

- 所在地 神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16
- TEL 078-851-2161
- 創立 1934年6月17日
- 土地面積 21,489,57㎡
- 建物

本館	地下1階地上7階	延29,204.87㎡
南館	地下2階地上3階	延 5,986.97㎡
東館	地下1階地上3階	延 3,915.72㎡
管理棟	地上5階	延 3,751.98㎡
- 病床数 461床(一般病床)
- 職員数 医師159名、看護部門476名、診療技術部門151名
事務部門108名 計894名(2023年3月31日現在)
- 診療科目 循環器内科/消化器内科/呼吸器内科/糖尿病・内分泌・総合内科/
腎臓内科/リウマチ膠原病内科/脳神経内科/腫瘍・血液内科/
緩和ケア内科/放射線科/小児科/皮膚科/精神科/消化器外科/
乳腺外科/心臓血管外科/呼吸器外科/整形外科/リハビリテーション科/
脳神経外科/眼科/耳鼻咽喉科/泌尿器科/産婦人科/形成外科/
麻酔科/歯科口腔外科/救急科/病理診断科
- センター： 血液浄化センター/認知症疾患医療センター/糖尿病センター/
IVRセンター/PETセンター/低侵襲ロボット手術センター
- 外来診療 受付時間：8時30分～11時30分
診療時間：9時00分～17時00分
- 入院基本料施設基準 急性期一般入院料Ⅰ(406床)/緩和ケア病棟入院料Ⅰ(22床)/
特定集中治療室管理料3(8床)/小児入院医療管理料3(25床)
- 救急告示 有(二次救急)
- 施設認定 地域医療支援病院
- 医師臨床研修 基幹型臨床研修病院(定員8名)

組織図



▶ 診療実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院 患者数	2021	317	308	320	314	320	306	311	315	295	311	308	349	315
	2022	341	350	329	319	316	338	332	341	341	355	346	331	337
1日平均 外来 患者数	2021	767	785	730	800	774	818	804	815	850	819	797	826	798
	2022	821	844	787	827	785	875	854	854	872	835	831	860	837
新入院 患者数	2021	969	916	978	983	967	947	937	977	904	898	802	1,004	940
	2022	919	1,028	965	957	941	1,024	986	1,031	1,062	1,008	965	1,091	998
中央手術室 における 手術件数	2021	421	369	415	414	414	433	448	465	429	371	363	510	421
	2022	431	417	462	408	445	438	464	455	466	455	442	502	449

診療科紹介

▶ 循環器内科

▶ これからの展開

六甲アイランド甲南病院時代より365日24時間循環器疾患の受け入れを行ってきた。甲南医療センター開院後、更に救急体制を強化し、断らない救急を実践している。循環器疾患は虚血性心疾患、弁膜症、不整脈、末梢動脈疾患、心不全などがあり緊急を要する疾患が多く迅速な対応が不可欠と言える。クリニック、近隣の病院とは循環器疾患のホットラインを設け、スムーズな受け入れを行っている。SNSや病院主催のWEB会議といったICTを活用した病院連携にも取り組んでいる。救急隊とは密接な協力体制を取っている。

▶ 得意領域の深化

カテーテル治療、不整脈などの専門医が多数在籍しており、すべての循環器疾患に対応している。虚血性心疾患に対しては、従来のステント治療だけでなくロータブレード、DCB(Drug-coated Balloon)による治療を行っている。また、重症大動脈弁狭窄症に対しては、バルーンによる治療(BAV)を、心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍症など頻脈性不整脈に対しては積極的にカテーテルアブレーション(ABL)を行っている。心不全治療に関しても最新のエビデンスに基づいた加療、心臓リハビリを行い、六甲アイランド甲南病院との病病連携、クリニックとの病診連携も行っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	32.7	29.7	27.7	24.6	21.3	25.3	26.3	32.9	30.6	40.8	29.6	41.0	30.3
	2022	45.9	47.4	42.6	36.9	33.6	40.9	44.8	53.6	46.8	51.3	47.9	51.6	45.2
1日平均 外来患者数	2021	59.0	60.6	53.3	60.3	58.9	65.0	60.3	59.2	63.0	63.2	61.5	62.2	60.5
	2022	64.3	63.8	57.9	62.8	59.8	65.5	66.8	66.8	68.8	69.3	66.4	62.2	64.5
新入院患者数	2021	96	90	88	81	78	89	83	104	91	110	75	94	89.9
	2022	106	121	93	101	75	105	118	125	107	119	117	132	109.9

▶ 消化器内科

▶ これからの展開

- ①スタッフを増員、層を厚くして様々な疾患・病態に対応できる体制を整えていきたい。
- ②大学や連携施設と人や技術の交流をし、レベルアップを目指す。
- ③コメディカルの内視鏡技士資格取得者も増やしていきたいと考えている。

▶ 得意領域の深化

毎日の消化器内科の外来、および内視鏡検査で精度の高い診断を行って治療に結び付けている。

- ①早期消化管がんの内視鏡診断治療：正確な術前範囲診断。癒痕症例など困難例にも対応。部位に応じて全身麻酔下に施行。症例に応じて消化器外科との合同手術も施行。
- ②胆膵系内視鏡検査・治療：技術が必要とするEUS、ERCP関連手技を施行。
- ③緩和的治療としての内視鏡手技：消化管ステントや胆管ステント、PTEGなど、症状緩和目的の治療内視鏡を施行。
- ④消化管機能性疾患の診断治療：神戸大学と連携し食道運動機能評価しPOEM施行。
- ⑤炎症性腸疾患の診断治療：厚生労働省治療指針に基づいた治療。新規認可薬剤による治療にも対応。神戸大学との連携。
- ⑥慢性肝疾患の診断治療：ウイルス性肝炎、NASH、自己免疫性肝炎、肝臓癌など肝疾患の診断治療に対応。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	33.1	36.1	34.5	31.2	35.3	38.5	37.4	43.0	35.2	35.9	33.1	29.5	35.2
	2022	40.3	38.9	25.5	34.2	26.9	44.2	39.1	44.7	42.5	40.3	35.7	40.7	37.8
1日平均 外来患者数	2021	54.7	52.9	51.3	54.1	54.4	58.1	59.0	63.1	64.9	58.7	60.6	56.5	57.3
	2022	61.6	64.3	60.9	57.9	55.0	61.7	65.6	60.8	64.2	59.6	61.3	65.1	61.5
新入院患者数	2021	134	136	123	117	148	134	158	131	138	110	101	145	131.3
	2022	138	123	106	105	100	147	123	144	135	118	113	139	124.3

▶ 呼吸器内科

▶ これからの展開

呼吸器内科は2020年4月に開設し、呼吸器専門医2名で診療を開始した。神戸大学呼吸器内科の関連病院では、兵庫県内で最も東に位置する病院である。長らく呼吸器内科の専門医を擁する総合病院がなかったエリアであり、神戸市東灘区周辺地域の患者や、地域医療を行っている先生方のご要望に応じていけるように取り組んでいきたい。今回の増床に伴い、より多くの方の診療にあたっていければと考えている。2023年4月より専攻医が2名となり、外来、入院ともフレキシブルに対応できており、近隣施設からの紹介も増えてきている。

▶ 得意領域の深化

肺炎や結核・非結核性抗酸菌症などの呼吸器感染症、肺がん、間質性肺炎、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）など幅広く診療を行っている。2023年4月からは常勤の呼吸器専門医が2名、専攻医が2名となった。また、神戸大学呼吸器内科からの応援医師の協力も得て、より充実した診療体制と検査体制を整えた。4月以降、気管支鏡の件数も増加しており、今後肺がんの化学療法が増加してくることを期待している。呼吸器外科や放射線科との連携もできており、様々な診断・治療の選択肢をご提供できるものと考えている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	11.4	9.7	12.2	11.8	8.5	10.1	8.0	7.9	11.7	16.5	9.9	13.5	10.9
	2022	7.7	7.5	8.0	5.3	5.7	9.3	7.1	8.9	9.0	10.6	9.1	10.2	8.2
1日平均 外来患者数	2021	13.1	12.3	11.5	11.7	12.2	10.8	12.5	14.5	14.2	15.4	13.4	12.2	12.8
	2022	12.6	13.6	12.9	13.0	11.8	14.3	14.1	14.1	15.3	14.5	13.1	13.1	13.5
新入院患者数	2021	29	29	32	35	21	24	17	20	37	35	23	29	27.6
	2022	14	27	24	15	16	22	15	18	25	22	17	25	20.0

▶ 糖尿病・内分泌・総合内科

▶ これからの展開

糖尿病患者さんは現在も増え続けているが、その検査・治療に関しては着実に進歩を遂げてきている。次々と新たな薬剤が登場し、テクノロジーを駆使した新たな機器によって糖尿病診療が変わろうとしている。持続血糖モニターCGM/FGM、持続皮下インスリン注入CSII、その利点を合わせたSAP治療等、これらの機器を使用することにより、患者さんの状態を詳細に解析し適切に対応することができるようになってきた。当科を受診された患者さんに対しても、最新の情報を提供し、適切に対応することによって、今まで以上に細かく病態把握を行い、その患者さんに合った治療法の選択を行えるように努めている。

▶ 得意領域の深化

当院では糖尿病センターとして、腎臓内科、循環器内科、眼科、脳神経外科、整形外科、形成外科等の糖尿病に関連する多くの診療科と連携をとることにより、糖尿病合併症に対してもきめ細やかな対応に取り組むことが可能となっている。また3名の日本糖尿病学会専門医・指導医に加えて、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、公認心理師を始めとする医療スタッフによるチーム医療によって糖尿病診療の質を上げるよう努力している。入院期間中でのスタッフからの教育指導や、外来での糖尿病療養指導、栄養指導、薬剤指導、フットケア指導等で効果を上げている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	40.9	37.6	33.8	32.4	35.9	35.2	29.5	29.0	24.7	27.1	30.4	36.6	32.8
	2022	22.8	23.9	24.4	22.6	25.2	22.3	20.8	24.7	29.5	25.5	19.3	20.3	23.5
1日平均外来患者数	2021	52.4	61.1	52.0	56.6	53.4	58.3	56.7	55.0	56.8	61.7	54.5	52.3	55.9
	2022	51.6	53.5	49.8	56.2	50.7	54.8	54.0	52.5	57.6	55.9	55.6	52.7	53.7
新入院患者数	2021	85	86	76	71	79	91	63	57	48	60	67	80	71.9
	2022	42	56	51	53	50	49	46	66	90	44	41	42	52.5

▶ 腎臓内科

▶ これからの展開

蛋白尿から維持透析までの一貫した腎臓病診療を継続・発展させるため、まずは病診連携を一層密にしていけることが重要と考えている。患者さんにも腎臓病を理解してもらい、病氣と上手に付き合ってもらうため、腎臓病教室の開催も続けていきたい。今後は慢性腎臓病教育入院を増やせるように病棟の体制を充実させていきたいと考えている。

▶ 得意領域の深化

透析導入患者の高齢化がすすみ、血液透析治療を開始しても家に帰ることができず、入院透析を継続せざるを得ない例が増えている。一方在宅治療である腹膜透析は、高齢者であっても家族や訪問看護師のサポートで治療がおこなえる場合がある。高齢であるからといって諦めずに、腹膜透析の説明をおこない、腹膜透析導入を増やすようにしている。訪問看護ステーションのスタッフと一緒に勉強会を繰り返しおこなって、知識・情報を共有して連携を保つようにしている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	20.5	20.9	20.2	16.4	24.5	16.5	17.4	15.8	19.4	23.2	27.8	20.9	20.3
	2022	17.6	21.2	16.0	18.5	20.4	18.8	15.9	17.2	16.8	17.9	17.2	16.2	17.8
1日平均外来患者数	2021	71.9	85.1	71.2	84.0	77.3	76.5	72.0	72.1	78.0	80.2	73.7	71.1	76.1
	2022	71.1	74.6	64.4	70.8	64.6	71.8	69.7	67.5	71.2	74.8	66.3	66.4	69.5
新入院患者数	2021	37	47	38	44	65	34	41	31	52	52	36	36	42.8
	2022	31	47	34	35	40	39	30	38	43	38	40	44	38.3

▶ 脳神経内科

▶ これからの展開

甲南医療センター自体が東灘の地域に根ざした救急医療に力を入れており、それにともない脳神経内科も脳卒中や神経救急に診療の重点を移し、フットワークの軽い脳神経内科を目指している。また、医師の働き方改革が叫ばれており、スタッフの増員にともない脳神経内科では主治医制からチーム制へ移行し、その結果として医師ひとりひとりの負担の軽減を目指している。そのため毎日朝夕にカンファレンスを行い、全入院患者さんを全スタッフで把握し、質の高い医療の維持に努めている。

▶ 得意領域の深化

脳卒中診療に力を入れており、脳神経外科とタッグを組んで質の高い診療を行うことを目指している。そのため、に2021年4月より脳神経外科と週1回合同カンファレンスを開催し、症例や最新の治療法・ガイドラインの共有を行い、診療科に関わらず標準的な治療を患者さんに提供できる体制を構築している。また別にリハビリカンファレンスも行い、リハビリテーション科も含め、多職種による円滑なチーム医療を行うようにしている。さらに、2022年1月からは毎週火・木・金曜日の夜間に脳神経内科もしくは脳神経外科医が必ず当直を行い、断らない脳卒中診療を目指している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	6.8	7.5	8.9	9.1	6.8	11.4	12.9	13.5	11.7	11.3	10.8	17.7	10.7
	2022	12.5	15.9	15.5	13.3	13.4	18.4	14.7	15.3	15.2	16.0	11.0	12.6	14.5
1日平均外来患者数	2021	21.5	23.3	22.9	25.8	24.5	25.9	25.2	26.9	27.9	23.7	25.6	26.5	25.0
	2022	27.4	27.7	27.3	28.9	27.5	29.1	27.3	28.4	30.0	28.5	28.4	28.8	28.3
新入院患者数	2021	13	21	16	10	11	23	19	18	21	18	18	30	18.2
	2022	33	30	32	32	27	39	30	30	31	25	21	29	29.9

▶ 腫瘍・血液内科

▶ これからの展開

分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の出現により、がんのできた臓器に関わらない臓器横断的治療が広まっている。様々な臓器のがんに効果が期待できる一方、従来の抗がん剤とは異なる有害事象がある。脳炎、心筋炎、副腎不全、1型糖尿病などの重篤な疾患が出現することがある。これらの疾患は普段あまり抗がん剤を使用しない診療科の疾患である。的確な対応ができるように、がん診療に直接携わる診療科だけでなく抗がん剤投与を行うことが少ない診療科医師を含めて勉強会を行うなど情報発信を行っていく。化学療法を行いながら社会生活を安心して営めるように看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーなど多職種による包括的なサポートを充実させていく。入院中は、がんリハビリテーションを行い日常生活行動の維持を目指す。

▶ 得意領域の深化

近年、がんの遺伝子変異などの特徴に合わせて抗がん薬が選択されるようになってきた。2019年がん遺伝子パネル検査が固形がんでも保険適応になり、血液がんでも現在開発が進められている。2021年8月には組織検査が困難な固形がんでも血液による検査(リキッドバイオプシー)が可能になった。以前の組織を使った検査よりも身体への負担が少なく迅速に結果がでることが期待できる。遺伝子の変化があれば、患者さんそれぞれのがんに適した薬剤があるかを検討し、主治医が治療方針を提案している。効果がある治療法が見つかることもある反面、治療につながる情報が得られないこともある(現時点で治療に結びついた患者さんの割合は約10%)。遺伝子変化に対応した薬剤開発が進められており、効果的な治療薬が増加することが期待されている。当科では神戸大学医学部附属病院と連携し、治療法の選択に遺伝子パネル検査を活用している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	16.4	16.4	19.2	20.6	16.9	17.0	22.3	18.9	19.6	17.0	15.9	18.4	18.2
	2022	26.2	24.7	22.5	17.2	18.3	18.9	16.6	16.9	15.9	22.3	18.4	18.9	19.7
1日平均外来患者数	2021	38.9	38.1	36.8	37.0	36.1	38.7	35.7	39.0	41.1	35.5	39.6	38.2	37.9
	2022	36.7	38.7	37.9	38.6	34.3	42.3	39.5	39.5	42.0	38.0	39.7	39.0	38.8
新入院患者数	2021	39	37	40	46	43	46	51	52	45	49	40	50	44.8
	2022	54	59	67	51	59	53	49	53	50	55	45	56	54.3

▶ 緩和ケア内科

▶ これからの展開

新病院となり、さらにactiveとなっていく病院に合わせ、緩和ケア内科、緩和ケア病棟一丸となり、さらにAcute Palliative Care Unit(急性期緩和ケア病棟)として、入院が必要な苦痛を抱えたがん患者さんの受け入れを強化していきたい。また高度な専門的緩和ケアの提供を行うべく、日本トップクラスの治療・ケアが行えるようにスタッフのスキルアップも行っていきたい。

▶ 得意領域の深化

甲南医療センター緩和ケア病棟の強みは「緊急対応」と「地域連携」と言える。緩和ケア病棟の「神戸市東部の住民が安心して療養できる環境を質の高いレベルで提供していく」というミッションを共有し、休日・夜間問わず、在宅療養されている患者さんに、入院が必要となった場合には受け入れを行っている。(事前に入棟面談受診後の患者さんに限る)また、なるべく患者さんがご自宅で苦痛なく過ごせるよう、訪問診療を行う医療機関、訪問看護ステーション、ケアマネージャーらと綿密な連携をとっている。この綿密な連携により速やかな入院受け入れが可能となっている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	16.8	14.5	15.9	15.7	17.0	15.3	12.3	14.5	17.6	16.6	14.1	13.7	15.3
	2022	21.0	17.1	17.2	18.2	15.8	18.2	16.2	13.4	13.5	14.6	16.9	18.2	16.7
1日平均外来患者数	2021	0.9	0.5	0.7	0.6	0.6	0.8	0.6	1.3	1.0	1.3	1.4	1.8	1.0
	2022	1.4	1.2	1.4	0.8	1.3	1.4	1.4	1.6	2.0	1.8	2.7	2.1	1.6
新入院患者数	2021	29	18	28	29	22	20	22	29	31	25	26	29	25.7
	2022	28	25	26	21	26	30	23	25	25	23	29	27	25.7

▶ 小児科

▶ これからの展開

東灘区・灘区で唯一の小児病棟を持つ病院として、入院が必要な子どもを受け入れている。年間に約1000人の入院がある。また、神戸市の小児二次救急輪番病院として、神戸市全体から救急車や急病の子どもが集まって来る。小児病棟は25床で、感染症の多い小児の疾患に対応できるよう個室を多く準備している。小児の内科疾患だけでなく、耳鼻科や整形外科、形成外科などの手術が必要な子どもたちも入ってくるので病棟には病棟保育士を配置し、子どもの年齢に応じた療養支援を行なっている。新生児室は保育器が4台あり、低出生体重児や、生直後の新生児のトラブルに対応できるようになっている。

▶ 得意領域の深化

小児科医は感染症などの急性疾患全般に十分な経験を持つだけでなく、それぞれが専門分野を持ち、専門的な診療を行っている。現在、アレルギー学会専門医が2名(うち1名が指導医)、頭痛専門医が1名在籍しており、アレルギー外来、神経外来や、そのほかにも腎外来、頭痛外来、内分泌外来などを開設している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	11.3	16.6	22.2	22.2	12.7	8.8	9.0	7.8	7.3	6.6	7.5	6.2	11.5
	2022	7.8	12.0	10.9	13.6	14.3	16.5	13.1	13.0	13.5	14.4	13.4	14.9	13.1
1日平均外来患者数	2021	19.0	23.5	22.1	24.7	22.3	23.2	22.0	19.8	24.9	22.5	20.9	22.6	22.3
	2022	20.7	23.8	21.4	29.0	27.0	26.9	24.1	21.3	24.7	24.8	24.6	25.6	24.5
新入院患者数	2021	89	106	128	135	86	65	61	66	65	60	41	47	79.1
	2022	65	87	75	99	102	104	84	89	90	91	96	110	91.0

▶ 産婦人科

▶ これからの展開

産婦人科ほど多岐に渡る診療を行なっている診療科はないと言える。出産に始まり、さらに思春期のヘルスケア、妊娠分娩、成熟期の疾患(子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢胞)の治療、更年期のヘルスケア、がん治療、老年期の疾患といった女性の一生の健康管理ができる医療を、常に高い水準を目指し、女性の健康を保つ上で良きパートナーでありたいと考える。そのために、得意とする腹腔鏡などの低侵襲手術を伸ばすとともに、常に最新の知見や技術をアップデートしていきたい。学会、論文発表を積極的に行い、近隣の市民の皆様、医療関係者に対し情報発信をおこない一層地域に根ざした中核病院となることを構想していく。

▶ 得意領域の深化

当院は、兵庫県より地域周産期協力病院に指定され地域の周産期ネットワークの一翼を担っている。NICUが無い場合、妊娠35週以降の取り扱いだが、近隣のクリニックに通院中の妊婦さんに何かあった場合は紹介を頂いている。一方、当院通院中の妊婦さんに、例えば妊娠35週以前に急にお腹がはるなどの場合は、このネットワークを生かして高次の周産期医療機関と連携し、紹介をしている。従来より医師のスキルアップには力をいれており、当科は産婦人科のサブスペシャリティである周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、女性医学専門医やまた腹腔鏡技術認定医の修練施設。個々の医師が修練することで全体のレベルアップを計っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	12.5	9.2	8.5	10.1	10.9	10.6	14.0	13.3	9.1	8.5	9.2	10.8	10.6
	2022	8.7	9.4	7.2	7.7	9.4	7.2	9.4	9.7	8.7	7.2	9.3	10.4	8.7
1日平均外来患者数	2021	22.8	26.1	23.7	23.4	23.6	27.7	29.0	30.2	29.0	24.4	25.4	29.4	26.2
	2022	24.4	26.4	24.9	22.6	23.5	27.1	26.4	27.8	29.7	27.5	26.6	28.0	26.2
新入院患者数	2021	56	46	39	44	52	49	65	62	43	47	42	47	49.3
	2022	38	51	35	38	46	41	37	43	43	40	34	49	41.3
中央手術室における手術件数	2021	32	29	27	22	32	30	37	42	36	31	24	33	31.3
	2022	27	35	24	22	32	26	22	28	31	22	23	33	27.1

▶ 消化器外科

▶ これからの展開

消化器外科手術は外科医一人で行えるものではなく、さながら「ドクターX」のごとく数名の消化器外科医と麻酔科医、手術看護、手術スタッフの協力のもとで成り立っている。甲南医療センターとなって麻酔科、消化器外科、その他外科系診療科や手術室が拡充された為、手術枠が増え、手術待ちが軽減され、緊急手術はいつでもスムーズに行えるようになった。また、最新の医療機器が導入されており、最高の技術で安全かつ質の高い手術が行えている。上部・下部消化管領域、肝臓・胆道・膵臓領域、その他、全ての領域において低侵襲手術から高難度手術まで、あらゆる手術を個々の患者さんに応じて行っていく。

▶ 得意領域の深化

近年、内視鏡手術が普及し、ロボット支援手術も急速に進んでいる。もうすでに一部の消化管手術においてロボット支援手術が保険適用となるが、有用性・安全性が確認されれば、その他領域の手術にも保険適用が拡大される方向で検討されている。内視鏡手術は医師の手で手術を行い、ロボット手術は医師がロボットを使って手術を行う。ロボット支援手術にはメリットのみならずデメリットもあるが、今後はロボット手術が主流になると予想されている。甲南医療センターでも将来、ロボット支援手術の導入を見据えつつ、さらなる技術の向上のため我々消化器外科医はこれからも研鑽に努めていきます。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	19.3	20.5	20.0	21.0	19.3	19.8	20.0	22.0	18.7	18.9	22.3	19.4	20.1
	2022	17.7	15.4	20.5	18.5	19.8	23.1	24.1	20.3	25.3	22.2	22.5	17.5	20.6
1日平均外来患者数	2021	22.4	19.6	21.1	23.2	23.1	22.0	26.8	24.9	23.7	25.5	22.9	25.6	23.4
	2022	22.3	26.1	23.0	20.3	21.4	22.6	23.9	25.7	25.8	23.9	25.6	24.1	23.7
新入院患者数	2021	44	55	45	50	54	59	46	54	43	41	44	59	49.5
	2022	50	53	49	47	58	54	60	47	56	51	56	50	52.6
中央手術室における手術件数	2021	33	43	39	41	42	39	48	55	40	40	37	57	42.8
	2022	48	42	51	32	46	43	50	47	56	46	51	50	46.8

▶ 乳腺外科

▶ これからの展開

女性特有の疾患を扱う女性センターを立ち上げて、あらゆる職種が一堂に会するチーム医療としてセンター運営を行っていく構想。そこでは、乳腺外科、産婦人科、腫瘍内科、放射線診断、緩和医療などの医師が協力して、女性特有の疾患の診断、治療を担い、放射線技師、生理検査技師、看護師等コメディカルスタッフも含めて、カンファレンスや事例検討会など、話し合いをして考え方を共有していく機会が大切と言える。

また、次世代を担う乳腺専門医教育を若い医師に行い、優秀な将来を担う人材を育てていくべく、専攻医を積極的に採用して大学と連携して教育システムを構築していきたい。

▶ 得意領域の深化

外来診療は手術日(火曜日)以外の毎日行い、基本的に診療は完全予約制として、患者サポートセンターを通じて、新規紹介、乳癌二次検診、セカンドオピニオンを全て受けるようにした。また、乳癌地域連携パスを導入して、紹介医、地域の開業医の先生方と乳癌患者さんの連携診療を積極的に行っている。治療に関しては、多くの職種で構成する専門のスタッフが各々の役割を果たしながら、プレストームとして心をひとつにして、患者さん、ご家族が安心して治療を受けられるようにサポートしていきたい。また、遺伝外来を新設し、遺伝性乳癌を中心に遺伝カウンセリングを開始しており、腫瘍内科、産婦人科と協力して遺伝診療体制づくりを行なっている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	0.9	2.5	1.4	1.0	1.0	0.4	1.3	0.7	0.8	1.5	1.8	2.7	1.3
	2022	0.9	1.7	2.5	1.2	2.6	1.9	2.2	2.1	1.1	0.9	2.4	0.8	1.7
1日平均 外来患者数	2021	13.8	13.7	11.5	12.6	10.1	13.0	14.3	13.0	11.5	14.9	13.2	13.5	12.9
	2022	16.8	14.9	15.4	15.5	13.3	16.3	16.6	15.7	16.0	14.0	14.6	15.5	15.4
新入院患者数	2021	4	8	7	3	7	3	5	6	5	10	9	9	6.3
	2022	6	11	11	8	14	14	12	7	6	8	10	6	9.4
中央手術室に おける 手術件数	2021	4	9	5	5	1	2	4	4	2	4	6	9	4.6
	2022	5	6	7	5	10	7	9	7	4	6	5	4	6.3

▶ 整形外科

▶ これからの展開

コロナ禍もそろそろ終わり、さらに多くの患者さんを受け入れ、手術していく必要がある。今後は急性期医療だけではなく慢性疾患やスポーツ障害、腫瘍などたくさんの方の患者さんを近隣の病院やクリニックから紹介していただけるよう密接に連携していく必要がある。今後は勉強会や症例検討会、医療セミナーなどをface to faceで主催し、患者さんも含めて信頼していただけるよう努力していきたい。

▶ 得意領域の深化

専門性の高い技術を持った整形外科医が多数集まっていることにより、様々な疾患を治療することが可能となっている。特に脊椎疾患については、以前は当院を含め近隣の病院には専門医がおらず適切な治療が行われていなかったため、お困りの患者さんも多かったと思われる。現在、当院には脊椎専門医が常駐しており、適切な診察とMRIやCTを用いた的確に病態を診断し、効果的な治療を行うことが可能となった。特に、骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折に対しては、今まではコルセットと安静により完治までに長時間を要していたが、最近では数日の入院による最小侵襲手術により短期間で痛みから解放され、早期の社会復帰を目指すことができるようになっている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	44.8	38.4	38.7	43.1	47.8	45.3	49.1	41.9	42.4	46.3	45.0	54.2	44.8
	2022	51.6	54.2	52.2	54.4	61.0	53.6	52.5	50.7	46.5	58.5	64.0	46.9	53.8
1日平均 外来患者数	2021	86.9	84.6	83.8	89.7	85.9	89.3	88.4	89.4	97.0	94.3	93.4	97.8	90.0
	2022	99.7	101.5	96.9	102.3	98.5	106.8	100.5	105.1	102.4	100.2	98.1	109.6	101.8
新入院 患者数	2021	89	66	75	89	85	78	95	85	100	84	84	94	85.3
	2022	97	86	90	92	104	89	104	106	100	129	98	115	100.8
中央手術室 における 手術件数	2021	78	60	72	71	76	67	76	88	93	76	72	92	76.8
	2022	83	82	82	70	88	75	88	87	85	102	88	97	85.6

▶ 脳神経外科

▶ これからの展開

脳神経外科手術において、神経内視鏡や術中超音波検査および手術ナビゲーションなどのマルチモダリティを駆使して、より侵襲性の低い開頭術を実践します。また、脳血管障害の分野においては、その治療法の進歩により、これまで治療が困難であった部位に生じた脳動脈瘤に対してステント支援下でのコイル塞栓術や血流改変ステントを用いた脳動脈瘤治療などの従来の治療法より低侵襲かつ有効性の高い治療を展開していく。これまでと同様に敷居が低く受診しやすい脳神経外科でありながら、最先端の高度医療を提供していく。また、患者さんやご家族に丁寧に病状を説明し、理解を深めて頂きながら治療を受けていただけるような『よくわかるやさしい脳神経外科』を引き続き目指していく。

▶ 得意領域の深化

脳卒中の外科技術指導医と脳血管内治療指導医を揃え、より安全かつ有効な治療を選択できるように多角的な視点から診断治療を行なっている。実際の診療においては、3名の脳外科医と5名の神経内科医の計8名が連携して、当院の「断らない救急」診療に準拠した脳卒中診療体制を構築している。各々の専門性に応じた疾患別脳卒中診療を実践することで、より専門性の高い診断治療をさらに発展的に行なっていく。また、脳腫瘍や頭部外傷に対しても、周術期にICUにおいて専任のスタッフとともに、神経集中モニタリングでリアルタイムに病状を把握し、病状の変化に即座に対応できるシステムを構築している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	16.2	18.3	17.0	18.4	21.3	18.7	15.6	16.2	13.9	14.1	18.8	25.0	17.8
	2022	25.8	23.2	21.0	12.5	10.9	11.6	15.0	14.2	17.1	17.6	20.3	17.0	17.1
1日平均外来患者数	2021	8.8	8.9	8.9	9.0	7.1	11.2	9.6	9.1	9.5	8.3	8.3	9.4	9.0
	2022	9.7	8.9	8.2	7.8	7.9	8.3	8.9	8.3	9.4	8.1	7.9	10.0	8.6
新入院患者数	2021	40	28	30	24	30	34	29	27	26	20	30	36	29.5
	2022	27	25	28	24	19	22	31	26	34	33	28	29	27.2
中央手術室における手術件数	2021	24	15	30	58	22	1	11	25	43	26	13	66	27.8
	2022	14	7	7	2	2	8	7	8	7	12	12	13	8.3

▶ 眼 科

▶ これからの展開

眼科診療分野でのデジタル機器の進歩は日々めざましいものがある。一度の撮影で眼底全体を網羅できる広角眼底カメラは急速に普及がすすんでいるが、この広角撮影の技術は網膜断層がイメージングできるOCTや造影剤を使用しないOCTアンギオグラフィーにまで導入されつつある。広角撮影や造影剤を使用しない血管造影は診療のレベルアップ、検査時間の短縮、安全性向上につながり、医療、患者両サイドにもメリットが大きく当科としてもこれらの検査機器の導入を検討していきたい。

▶ 得意領域の深化

甲南医療センターの眼科は年間約1200件の白内障手術を行う。白内障手術に使用される眼内レンズには様々な付加価値を有したものが使用可能になっている。ただ、高価な多焦点眼内レンズのような付加価値をもった眼内レンズの使用が必ずしも「見える喜び」に直結するわけではない。手術を受ける方の生活スタイルを術前にしっかりと把握して本当にメリットのある眼内レンズを選定して「見える喜び」に貢献していきたい。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	8.2	6.2	8.6	7.9	8.0	9.6	8.8	9.0	8.1	6.0	6.8	8.6	8.0
	2022	6.8	7.2	7.4	7.9	5.4	7.4	7.8	7.8	9.1	6.8	9.3	7.5	7.5
1日平均外来患者数	2021	60.6	61.7	55.5	60.9	53.1	66.6	65.7	61.4	67.6	60.5	56.6	67.1	61.5
	2022	69.0	62.2	63.0	63.3	51.1	73.2	74.0	66.7	68.0	64.3	61.9	70.8	65.6
新入院患者数	2021	95	75	97	83	82	96	101	102	91	78	75	124	91.6
	2022	97	95	123	110	75	108	118	111	110	101	113	120	106.8
中央手術室における手術件数	2021	160	131	162	146	130	169	164	162	163	122	125	182	151
	2022	163	148	188	171	140	177	193	178	182	161	177	187	172.1

▶ 耳鼻咽喉科

▶ これからの展開

耳鼻咽喉科の疾患は多岐にわたる。小児は滲出性中耳炎、真珠腫性中耳炎、扁桃肥大、乳幼児の難聴など、成人は慢性扁桃炎、真珠腫性中耳炎、慢性副鼻腔炎、声帯腫瘍、急性炎症性疾患、顔面神経麻痺、突発性難聴などを中心に、地域の耳鼻咽喉科医院と連携をとりながら診療を行う。今後は、高齢社会にむけて眼科と合同で慢性涙囊炎による涙目などでお困りの方に鼻腔涙囊吻合術を積極的に行っていく。嚥下障害の診断を通じて、他科診療を支援する。当科は、医師をはじめ聴覚専門の言語聴覚士など女性スタッフが多く、0歳から100歳以上の老若男女、お子さんや働く保護者への配慮を含め、気配り上手で丁寧な医療を目指している。

▶ 得意領域の深化

慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻副鼻腔腫瘍などの鼻内疾患に対する手術は内視鏡下で行われる。以前に比べて、よりきれいな画像を見ながら細かい手術操作が可能となった。ただし、鼻副鼻腔の隣には脳や目といった重要な臓器があり、当然損傷することは避けなければならない。当科では事前に撮影したCT画像とリアルタイムの手術操作部位を照らし合わせ、正確な位置確認ができるナビゲーション機器を導入している。これにより、一層安全な手術が可能となり、全身麻酔で最短4日間の入院期間で実施が可能。鼻づまりや後鼻漏、嗅覚低下などでお困りの方は、まず手術が必要かどうか確認を行っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	3.9	0.7	3.2	3.9	5.1	2.5	2.7	2.5	2.7	1.9	3.8	6.3	3.3
	2022	3.8	5.3	3.5	3.2	4.9	2.4	3.5	3.4	3.1	2.8	3.3	2.7	3.5
1日平均外来患者数	2021	31.6	28.1	28.1	30.9	33.9	32.7	30.5	34.5	34.0	29.4	29.2	34.5	31.5
	2022	31.1	33.2	30.1	30.5	34.8	38.3	34.5	34.5	32.5	30.2	35.0	36.7	33.4
新入院患者数	2021	20	2	19	27	26	17	16	17	12	16	17	28	18.1
	2022	13	28	23	17	26	16	17	17	15	17	19	20	19.0
中央手術室における手術件数	2021	13	1	10	16	17	14	13	11	7	10	12	19	11.9
	2022	9	11	16	14	19	12	14	12	11	13	9	22	13.5

▶ 泌尿器科

▶ これからの展開

2022年から泌尿器科の主な開腹および腹腔鏡手術はロボット支援手術が保険適応となった。既にロボットを導入している施設ではこれら手術がほぼすべてロボット支援で行われている。現在当院では腎尿管悪性腫瘍手術は腹腔鏡で行っているが、前立腺癌や膀胱癌などで全摘手術が必要な患者は神戸大学附属病院や神鋼記念病院などの関連病院へ紹介している。今年度、当院でもロボットを導入する予定ですが、まずは安全に導入できるよう手術スタッフを含めたレベルアップが必要。次に他院に比べ10年以上の遅れをとっているため、手術患者の確保や手術手技の向上が急務となる。

▶ 得意領域の深化

尿路結石治療は最新の内視鏡とレーザーを使用して安全で確実な経尿道的結石治療(TUL)を積極的に実施している。腎尿管悪性腫瘍の手術や副腎腫瘍の腹腔鏡手術を安全に行っている。膀胱癌の経尿道的(内視鏡)手術も経験豊富な泌尿器科専門医が行う事により、再発や合併症の少ない手術が可能。前立腺肥大症に対してはバイポーラ電気メスやホルミウムレーザーを使用した経尿道的核出術で、大きな前立腺でも安全な手術を行っている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	4.7	5.4	6.1	5.8	6.9	4.9	7.3	7.1	4.3	5.0	4.8	6.0	5.7
	2022	4.3	5.2	6.4	7.4	5.9	4.9	6.6	4.9	6.8	8.1	5.4	4.5	5.9
1日平均外来患者数	2021	21.5	21.0	18.1	20.1	21.2	20.4	21.9	22.8	23.7	21.4	19.8	22.2	21.2
	2022	22.6	23.2	22.6	21.4	23.4	20.1	23.9	23.2	24.6	22.8	24.0	20.3	22.7
新入院患者数	2021	21	29	34	29	34	30	37	34	29	28	24	36	30.4
	2022	25	28	24	33	38	31	27	31	35	35	21	22	29.2
中央手術室における手術件数	2021	15	23	23	28	18	20	25	22	18	19	16	21	20.7
	2022	18	17	17	27	19	22	18	17	24	22	15	15	19.6

▶ 形成外科

▶ これからの展開

形成外科の常勤スタッフは3名だが、指導医は1名のため外来と手術、入院患者管理、救急からの診療応援、他診療科の手術支援や褥瘡管理など、手一杯なのが現状である。将来的には人員補充を行い、指導医2名で2チームで診療分担が行える体制づくりが目標である。診療範囲としてやや外傷手術症例が少ないため、今後外傷応需率をあげ外傷領域の手術件数UPを目指す。

▶ 得意領域の深化

1) 眼形成外科

眼瞼下垂症をはじめとする瞼(まぶた)の形成外科で質の高い医療を提供していきたい。年々、近隣開業医から眼瞼手術依頼の紹介件数は増加傾向にある。高齢者の加齢性の眼瞼疾患のみならず、小児の先天性眼瞼下垂や内反症では全身麻酔下に手術ができる体制である。

2) 乳房再建

乳腺外科と連携して希望される患者さま全てに乳癌の治療と並行して乳房再建の機会を提供できればと考える。自家組織および人工物それぞれの再建が提案できる。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	9.6	11.3	11.4	9.4	11.2	9.4	9.9	9.2	10.2	8.5	6.1	8.3	9.6
	2022	7.9	8.5	11.5	11.9	8.9	7.1	9.3	10.0	10.5	7.8	10.1	6.3	9.1
1日平均 外来患者数	2021	16.2	14.6	17.4	18.3	19.5	15.1	19.0	18.1	20.1	18.7	15.9	19.0	17.7
	2022	18.5	19.0	15.4	17.9	16.4	18.6	14.8	19.0	18.4	15.4	15.4	16.2	17.1
新入院患者数	2021	10	14	18	12	22	14	20	17	9	17	12	29	16.2
	2022	6	17	18	18	16	15	11	14	17	20	14	12	14.8
中央手術室に おける 手術件数	2021	28	25	23	25	35	29	25	32	26	20	26	43	28.1
	2022	23	29	27	25	47	33	22	29	34	35	25	28	29.8

▶ 歯科口腔外科

▶ これからの展開

口腔外科疾患全般に対して質の高い医療を提供できるよう研鑽を積み、地域に必要な歯科口腔外科と認識されるよう努力したい。また、チーム医療を担う一員として院内の他診療科との連携を深め、周術期の患者さん、人工呼吸器が装着されている患者さん、抗癌剤を投与されている患者さんなどに対して積極的に介入し、口腔内を清潔にして食べる機能を回復することで、治療成績の向上に貢献していきたい。

▶ 得意領域の深化

当科では、患者さんがストレスなく安心して抜歯できる体制を整えている。親知らず(智歯)が深い位置に埋伏している場合や、抜歯に対する恐怖心の強い患者さんに対し、入院(2泊3日)のうえ全身麻酔下での抜歯を行っている。2022年の症例数は193件と当科の入院症例の7割以上を占めており、得意領域となっている。また、抗血栓薬(抗凝固薬や抗血小板薬)を内服している患者さんは、抜歯後の出血が止まりにくいリスクがあるので、抜歯した日に1泊してもらい翌日に退院する1泊2日の入院局麻下の抜歯も行っている。入院しているので、抜歯部位から夜間に出血しても迅速に対応することが可能である。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	1.3	1.3	1.4	1.6	1.5	1.6	1.6	1.8	1.3	1.3	2.4	2.0	1.6
	2022	1.5	1.7	2.2	2.9	1.7	1.2	1.3	1.4	1.0	1.2	1.7	1.7	1.6
1日平均 外来患者数	2021	29.4	31.3	28.0	33.9	32.6	33.3	34.8	35.2	36.4	34.1	36.9	40.1	33.8
	2022	37.6	38.4	37.7	37.6	37.4	37.3	40.2	41.8	41.1	37.1	41.2	43.6	39.2
新入院患者数	2021	20	17	21	21	23	21	24	26	20	23	22	25	21.9
	2022	20	25	26	29	26	19	20	22	17	21	28	24	23.1
中央手術室に おける 手術件数	2021	17	15	20	20	19	19	19	19	19	17	15	19	18.2
	2022	17	15	22	17	23	16	18	20	14	14	20	21	18.1

▶ 皮膚科

▶ これからの展開

乾癬、アトピー性皮膚炎の治療薬である生物学的製剤が使用できるようになった。生物学的製剤は、乾癬、アトピー性皮膚炎でそれぞれ深く関わっているIL(インターロイキン)の働きを抑えることで症状を改善させる薬剤であるが、これまでの治療(外用剤や内服薬、紫外線治療など)では十分な効果が得られなかった方が対象となる。残念ながらすべての患者さんに適応があるわけではないが、当院でも積極的に導入を行っている。クリニックなどからの生物学的製剤導入を目的とする紹介が今後も増えていくと考えられる。

▶ 得意領域の深化

皮膚の感染症、带状疱疹(ヘルペス)などの患者さんをはじめ入院加療も積極的に実施。皮膚腫瘍の手術や、薬疹、接触皮膚炎などのアレルギー疾患に対するパッチテスト、皮膚テスト等のアレルギー検査も行っている。乾癬や掌蹠膿疱症等に対する光線療法、陥入爪治療や尋麻疹、にきび(ざ瘡)、脱毛症などの皮膚症状についても対応している。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均入院患者数	2021	3.5	2.7	6.5	4.5	3.8	2.1	3.1	4.3	3.6	2.1	4.4	5.7	3.9
	2022	7.1	3.7	6.4	6.1	5.9	4.0	4.7	3.5	3.8	2.5	2.8	5.5	4.7
1日平均外来患者数	2021	35.2	38.3	32.5	39.1	39.0	40.8	38.3	36.4	38.5	34.9	36.1	38.0	37.3
	2022	37.6	40.3	34.2	35.6	34.8	41.1	39.5	41.1	38.9	39.6	37.6	44.6	38.8
新入院患者数	2021	9	10	15	15	8	10	7	10	8	10	8	13	10.3
	2022	15	13	13	15	13	10	18	10	18	8	10	24	13.9
中央手術室における手術件数	2021	10	11	10	12	8	20	17	11	10	12	11	11	11.9
	2022	11	13	14	7	10	7	12	8	8	15	8	14	10.6

▶ 救急科

▶ これからの展開

グラントオープン後、救急外来は初療室4(うち感染対策兼用2)・感染対策用室2・一般診察室2となり、点滴室6もあわせると14床となった。同時に診察できる患者数は多くなったが、対応する医師・看護師数はそれに見合うとは言えない。しかし専任の救急救命士が1名入ったこともあり、2022年度はコロナで制限がかかる中、救急車搬送数だけでも6100件を超える結果となった。2023年4月、待望の救急専門医1名が救急科専任で入り、専任2・内科専攻医2・臨床研修医3の基本体制となった。さらに週2日は神戸大学病院救急救命センターから応援医師1名を招き、前年度より充実した布陣で対応、平日日中の救急応需不可はほとんどなく対応可能となった。今後は、救急科専任の医師をさらに増員し、より多くの救急患者を、より安心して対応できる施設になるよう尽力し、将来的には救急学会認定施設を目指す。

▶ 得意領域の深化

救急科は専任2・内科専攻医2(平日日中内科系各科から2名派遣)・臨床研修医3で診療にあたっている。他科には、救急担当者が各日決まっており、受診した患者の診察結果に基づき、該当する科の救急担当者に連絡して診察を依頼している。全科が協力して救急患者に対応していることで、多様な疾患・多数の患者様の受け入れが可能としている。症例数が多く2次救急疾患のほとんどを扱い、さらに複数患者を同時診察する場合が多く、優先度・安全性を判断しつつの診察となる。こうした『限られた時間内での診断力』も養えるよう実症例・講義を通して指導・教育している。救急診療に関する、より専門的な知識を学習できるよう、現場での直接的な指導を行うとともに、救急診療に関するレクチャーや救急科症例の振り返り検討会を開催。救急で診察して頂いている専攻医や研修医の学習の糧となり、より高度な救急対応ができることを目標としている。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
救急搬送患者数	2021	434	395	411	442	368	456	413	422	433	385	391	409	413.3
	2022	462	467	419	491	455	522	485	503	701	557	510	532	508.7
救急ウォークイン患者数	2021	610	635	588	709	659	566	521	529	590	616	523	506	587.7
	2022	542	615	450	722	630	613	554	511	588	562	431	445	555.3
合計	2021	1,044	1,030	999	1,151	1,027	1,022	934	951	1,023	1,001	914	915	1,000.9
	2022	1,004	1,082	869	1,213	1,085	1,135	1,039	1,014	1,289	1,119	941	977	1,063.9

▶ 放射線科

▶ これからの展開

診断専門医5人、専攻医3人の計8人が在籍している。病院機能の統合や遠隔画像診断技術の発達に伴って、六甲アイランド甲南病院・甲南加古川病院の人員を甲南医療センターへ集約し、甲南会3病院の画像診断業務を全て担っている。これによって読影業務の効率化のみならず、知識の共有や他科の医師・パラメディカルとのコミュニケーションを活性化が得られ、これまで以上の医療水準を提供できるよう努めている。また、2019年秋より、タブレット端末(SYNAPSE ZERO、富士フィルムメディカル®)を用いた遠隔画像診断も導入している。甲南医療センターの掲げる「24時間365日断らない救急」を後押しできるよう、夜間・休日問わず読影可能な体制としている。

▶ 得意領域の深化

近年、人工知能(Artificial Intelligence:AI)の技術のますます進歩している。一時は「医療へのAIの導入により放射線科医が不要になる」といった話も囁かれていた。しかしCT/MRIを含めた最新の医療技術に触れる機会の多い放射線科医にとってAI技術との親和性は高く、現在では「放射線科こそが医療へのAI導入の先進的・中心的役割を果たす」という流れへ変化しつつある。AI技術の導入は大学病院レベルのみならず、甲南医療センターにおいても徐々に進んできている。(CTコログラフィーでのポリープ解析、肝細胞癌に対するTACE時の腫瘍血管解析など)。AIと共存し、これらの技術を駆使して、将来的にもさらに精度の高い医療を提供できるようにする。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院患者数	2021	0.7	0.3	0.1	0.2	0.2	0.5	0.7	1.4	0.6	0.8	1.1	0.7	0.6
	2022	0.5	0.6	0.4	0.6	0.3	0.5	0.7	0.1	0.3	0.5	0.4	0.2	0.4
1日平均 外来患者数	2021	7.1	5.4	5.4	6.3	7.0	6.9	7.0	8.1	9.0	6.8	6.7	8.2	7.0
	2022	7.9	9.3	8.3	7.4	6.3	9.0	7.6	9.6	9.3	7.8	8.5	8.1	8.3
新入院患者数	2021	6	2	4	3	5	3	5	6	5	4	10	4	4.8
	2022	4	6	5	5	3	2	5	1	4	3	2	4	3.7

▶ 精神科

▶ これからの展開

院内他診療科からの依頼を受け、外来診察や入院患者へのリエゾンチーム回診を行うのが主な業務内容だが、救急外来での対応など精神疾患の発症急性期に介入となるケースも少なくない。他科と連携を図りながら、総合病院の精神科として限られた資源の中でできる限りの対応を今後行っていくが、単科精神科病院など精神科入院施設のある他科病院との連携を改めて強化していく。

▶ 得意領域の深化

当院の精神科リエゾンチームは精神科医1名、臨床心理士2名、看護師1名で構成されている。それぞれが様々な診療科との合同カンファレンスや頻回の病棟訪問などから情報を幅広く収集し精神疾患が疑われる患者への早期介入、詳細な病状変化の把握、迅速な治療対応の実践を目指している。病棟回診前のリエゾンチームカンファレンスでは各専門領域の視点から最適な介入方法について意見交換を行い、多職種ならではの複合的な解決策を今後行っていく。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 外来患者数	2021	9.4	8.9	8.2	9.3	9.0	9.6	8.7	8.6	8.4	9.6	8.3	7.4	8.8
	2022	6.3	7.6	7.5	9.2	9.4	9.4	10.2	8.7	8.4	8.3	8.7	9.3	8.6

▶ 麻酔科

▶ これからの展開

2022年度は手術室が10室となり、うち7室で麻酔科管理症例の手術に対応してきました。心臓血管外科や新生児の手術を除きあらゆる症例の手術に対応しています。今後も各診療科からのあらゆる手術に対応し、また、救急患者様の手術にも迅速に対応できるように努力していきます。

2023年度はロボット手術が導入される予定ですが、当院の麻酔科医すべてがロボット手術の麻酔管理を経験しておりスムーズな導入が可能であると考えます。

また、術後疼痛管理チームの活動も予定され、麻酔科医もその一員として周術期疼痛管理に貢献できると考えています。

▶ 得意領域の深化

麻酔科医の役割(得意分野)の一つとして、周術期全身管理があります。ICUなどにおける術後全身管理についてより一層関与していきたいと考えています。

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
全身麻酔 件数	2021	203	189	218	218	238	210	239	241	218	211	188	273	220.5
	2022	212	220	224	201	250	214	224	236	242	244	226	265	229.8

2. 六甲アイランド甲南病院

基本方針

- 患者様の人格と意思を尊重し、全人的医療をめざします。
- いつも安心と満足を提供できる病院をめざします。
- 良質の医療を提供するために、健全な経営をめざします。
- 専門職としての誇りを持ち、やり甲斐ある職場をつくります。

院長挨拶



三枝 康宏 院長

六甲アイランド甲南病院では、現在回復期リハビリテーション病棟と、地域包括ケア病棟を運営しています。回復期リハビリテーション病棟は、脳血管障害、骨折、股関節や膝関節の人工関節手術後の患者様に、リハビリテーション医療を集中的に提供する病棟です。2020年には、病棟およびリハビリテーションルームを、開放的な明るい空間に改修し、ADL訓練を主としたスペースと、電動昇降式のキッチンや浴室訓練等の設備を揃え、退院後の患者様個々に合わせたリハビリテーションが行えるようにしています。また、病棟内にもリハビリルームを設置しており、リハビリ技士による治療、訓練だけでなく、患者様自身も退院に向けたトレーニングがいつでも行える環境を整備しています。地域包括ケア病棟は、地域の患者様で、高度な医療は必要ないが、在宅での治療が困難な患者様に入院医療を提供する病棟で、主として、地域の先生方からのご紹介の患者様を受け入れています。さらに、急性期の治療は終了したが、回復期リハビリテーション病棟の入院の適応にはならない患者様も受け入れています。一般病床も一部存続しますので、地域の皆様の急性期医療の一翼を担えるものと考えています。特に、人生100年時代を想定した、心臓リハビリテーションを積極的に行っています。2020年4月には、一般財団法人甲南会は、公益財団法人となり、より公益性が求められるようになりました。甲南医療センター共々、地域の皆様の健康と福祉に貢献する所存でありますので、今後とも皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特色

六甲アイランド甲南病院は、神戸市東灘区の六甲アイランド内にあり、主に回復期の患者様を中心とした病院として、地域の医療機関からの紹介を積極的に受け入れ、地域の方々の生命と健康を守るための医療を実践しております。

当院では、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、一般病棟を有しており、特にリハビリテーションの特徴として、患者様個々の病態に応じた、安全かつ効果的な治療計画が提供できるよう努めております。

理念として「人類愛の精神に基づき、病める人のためにつくします」を謳い、職員がいつも笑顔と挨拶を絶やさず、医療知識と技術の研鑽を積み、信頼される安全な療養環境が提供できるように努めています。公益財団法人甲南会のグループ病院として、甲南医療センターや甲南介護老人保健施設、甲南訪問看護ステーション、地域の関係機関等と連携して、患者様が出来るだけ早く在宅で自立復帰ができるよう、医療と介護の支援に取り組んでいきます。

沿革

- 1992年(平成4) 4月1日、六甲アイランド病院開院(307床)
- 1995年(平成7) 阪神・淡路大震災で被災
- 2004年(平成16) 医師臨床研修病院指定
- 2006年(平成18) 病院機能評価(Ver.4)認定
- 2008年(平成20) DPC適用病院となる
- 2009年(平成21) 健診センターを開設
- 2010年(平成22) 病院機能評価(Ver.6)受審
- 2012年(平成24) 電子カルテを導入
- 2019年(平成31) 10月、甲南会の病院再編統合事業により、一般病棟34床、地域包括ケア病棟104床、回復期リハビリテーション病棟60床と再編され、198床へ

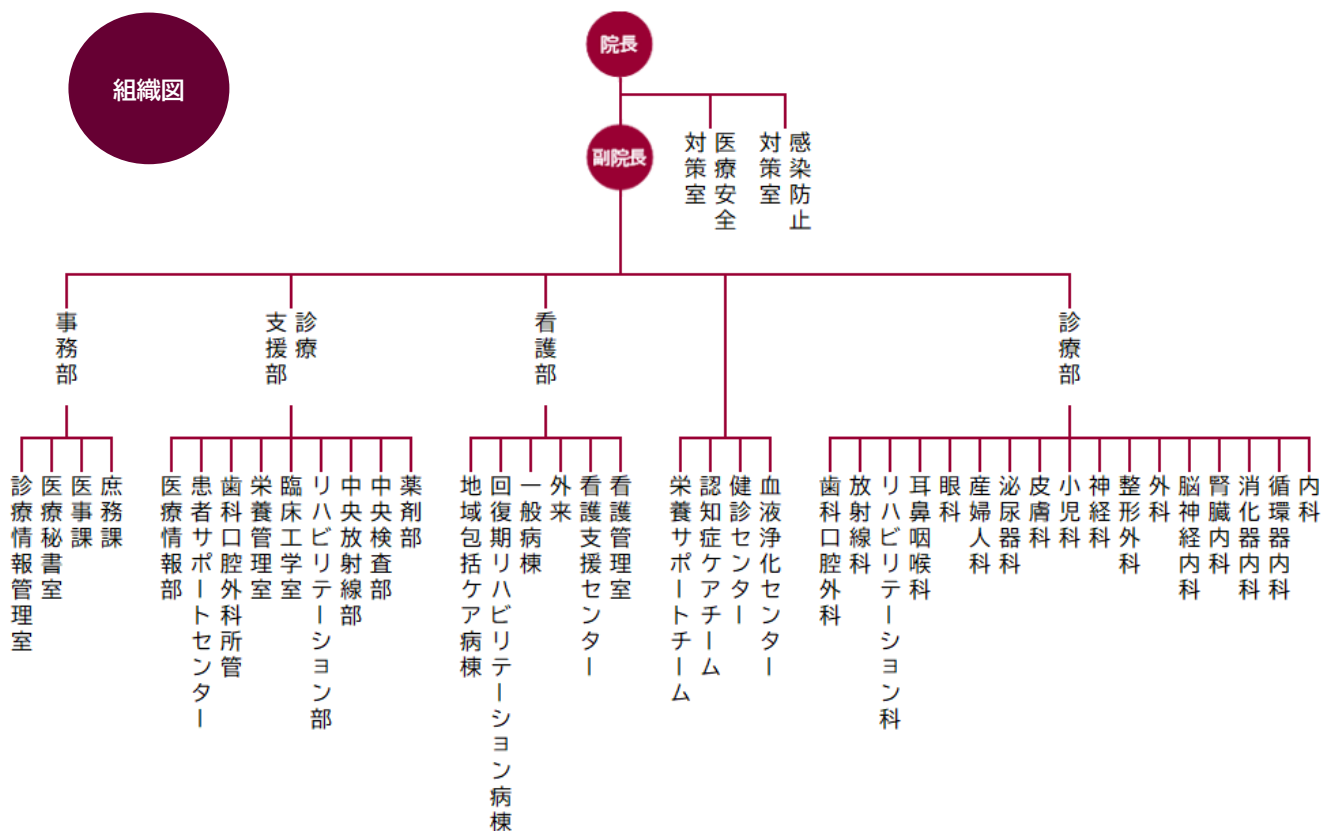
概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中2-11
- TEL 078-858-1111
- 創立 1992年4月1日
- 土地面積 4,967㎡
- 建物 地下1階地上13階 延20,974㎡
- 病床数 198床(一般病棟34床、地域包括ケア病棟104床、回復期リハビリテーション病棟60床)
- 職員数 医師17名、看護部門171名、診療技術部門88名
事務部門43名 計319名(2023年3月31日現在)
- 診療科目 内科/循環器内科/消化器内科/腎臓内科/脳神経内科/
外科/整形外科/神経科/小児科/皮膚科/泌尿器科/
産婦人科/眼科/耳鼻咽喉科/リハビリテーション科/
放射線科/歯科口腔外科/血液浄化センター/健診センター
- 外来診療 受付時間 : 8時30分 ~ 11時30分
診療時間 : 9時00分 ~ 17時00分
- 入院基本料施設基準 急性期一般入院料Ⅵ / 地域包括ケア病棟入院料Ⅰ /
回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰ
- 救急告示 有

▶ 診療実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院 患者数	2021	187	184	177	175	188	170	177	189	184	186	170	158	179
	2022	155	152	156	157	154	145	150	155	160	159	155	156	154
1日平均 外来 患者数	2021	315	335	304	337	312	322	311	327	352	316	313	304	321
	2022	308	314	281	300	289	315	295	296	304	284	288	290	297
新入院 患者数	2021	142	129	126	156	138	121	166	129	169	141	87	123	136
	2022	117	124	127	133	112	127	119	137	156	110	114	120	125
1日平均 健診センター 受診者数	2021	12	13	16	16	16	23	25	20	15	15	18	18	17
	2022	10	18	15	19	15	19	22	32	19	18	20	18	19

組織図



3. 甲南加古川病院

基本 方針

- 地域社会との協調を深め、信頼される病院を目指します。
- 患者様に優しさと安心と満足を提供できる病院を目指します。
- 患者様の人権と意思を尊重した医療を提供します。
- 医療職としての誇りを持ち、働き甲斐のある職場を目指します。

院長 挨拶



黒田 浩光 院長

甲南加古川病院は現在整形外科、内科の診療と皮膚科の外来診療を行っています。整形外科はリウマチ診療を継続しており、高い技術が必要な人工関節置換手術を中心に変形性関節症や、外傷による骨折に対する手術も積極的に行っています。また手術後や保存的加療が適応となる圧迫骨折などの疾患に対してリハビリテーションを入院、通院で提供しております。

内科は地域の急性期基幹病院と密接に連携して、急性期の専門治療終了後の継続入院加療を引き受けることや、介護施設や在宅で体調管理が困難となった患者の入院療養を行っています。在宅で通院が困難な患者には訪問診療、訪問看護を実施しております。

外来では循環器、糖尿病に加えて物忘れ外来、頭痛の専門外来を脳神経内科で行っております。周辺地域の皆さんに安全かつ信頼される医療が提供できるよう、職員一同が日々精進しております。

甲南加古川病院をこれからもよろしくお願いいたします。

特色

甲南加古川病院は、播磨平野のほぼ中央にあり、加古川市の東北丘陵地にある緑豊かな病院です。前身は、1945年(昭和20)12月に創設された伝統ある国立加古川病院で、国の病院再編により、平成12年12月1日に当財団に移譲されました。

リウマチ診療科は、リウマチ疾患の急性期から機能障害を有する慢性期まで、最新の薬物療法、人工関節手術、リハビリテーションなどの治療を行っています。

沿革

- 1941年(昭和16) 8月、加古川第二陸軍病院として創設
- 1945年(昭和20) 12月、厚生省に移管し、国立神野病院に改称
- 1950年(昭和25) 4月、国立療養所加古川病院に改称
- 1980年(昭和55) 4月、国立加古川病院に移管
- 2000年(平成12) 12月1日、国の病院再編により移譲、加古川病院開設(250床)
- 2002年(平成14) 加古川病院血液浄化センターの完成
- 2004年(平成16) 医師臨床研修病院指定
- 2005年(平成17) 病院機能評価(Ver.4)認定
- 2009年(平成21) DPC適用病院となる
- 2010年(平成22) 病院機能評価(Ver.6)認定
- 2011年(平成23) 電子カルテを導入
- 2016年(平成28) 人工関節センターを開設
- 2018年(平成30) 一般病床159床、療養病床40床の199床へ

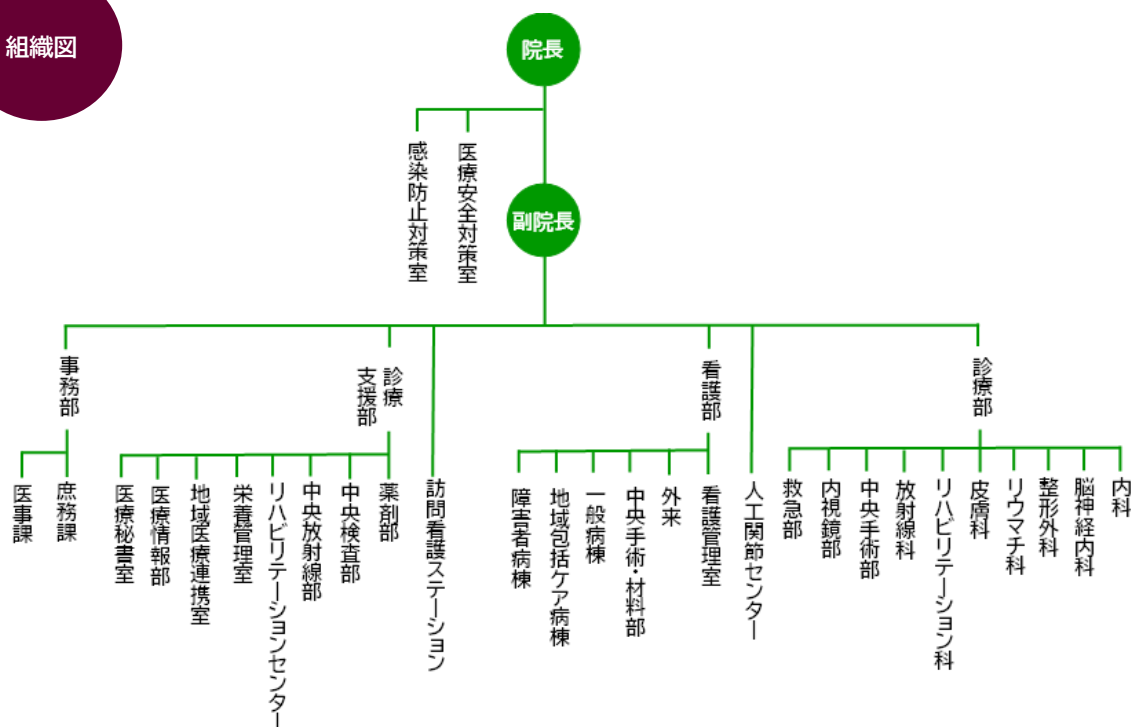
概要

- 所在地 加古川市神野町西条1545-1
- TEL 079-438-0621
- 創立 2000年12月1日(国立加古川病院から移譲)
- 土地面積 54,960㎡
- 建物 地上3階 延14,688,80㎡
- 病床数 199床(一般病棟159床、療養病床40床)
- 職員数 <甲南加古川病院>
医師10名、看護部門111名、診療技術部門35名、事務部門23名 計179名
<甲南加古川訪問看護ステーション>
看護師4名、事務1名 計5名
合計184名(2023年3月31日現在)
- 診療科目 内科/循環器内科/脳神経内科/リウマチ科/(外科)/
整形外科/皮膚科/リハビリテーション科/
放射線科/麻酔科/(眼科)/(耳鼻咽喉科)
- 外来診療 受付時間 : 8時30分 ~ 11時00分
診療時間 : 9時00分 ~ 17時00分
- 入院基本料施設基準 急性期一般入院料2/地域包括ケア病棟入院料Ⅰ/
障害者病棟10対1入院基本料/
- 救急告示 有(二次救急)

▶ 診療実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 入院 患者数	2021	101	101	102	106	108	108	100	110	106	108	100	96	104
	2022	94	90	90	85	85	93	90	92	90	90	87	84	89
1日平均 外来 患者数	2021	170	174	163	176	171	172	169	178	175	170	146	157	168
	2022	173	174	167	172	164	170	164	157	156	150	151	152	163
新入院 患者数	2021	104	85	95	87	106	88	100	87	85	91	28	82	87
	2022	88	93	87	64	107	80	90	87	91	83	91	90	88
中央手術室 における 手術件数	2021	39	33	47	35	55	36	53	42	37	37	15	46	40
	2022	48	46	47	44	36	37	40	44	41	38	43	49	43

組織図



▶ 甲南加古川訪問看護ステーション

概要

- 所在地 加古川市神野町西条1545-1
- TEL 079-430-5730
- 創立 2019年4月1日
- 活動地域 加古川市
- 営業日 月～金(土日祝、年末年始は休み)



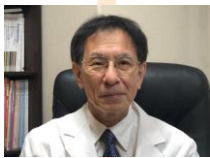
8時30分 ～ 17時15分

4. 甲南介護老人保健施設

基本方針

- 利用者様の人としての尊厳と権利を守ります。
- 利用者様が安心して心豊かに暮らせる施設を目指します。
- 利用者様の生活機能の維持向上に努めます。
- 地域連携を通し、利用者様が住み慣れた居宅への復帰を目指します。

施設長挨拶



宮下 勝 施設長

高齢者では複数の疾病を抱える人が多くなり、日常生活に関連した機能が低下するため、個々の疾病に対処するだけではなく、全身の臓器機能やADLに代表される身体機能、あるいは心のケアを含めさらに社会環境の整備までに及ぶ広い視点が必要と考えます。人生の豊かな経験を持つ、高齢者の方々に一人一人のNarrativeを大切に、尊重する姿勢で耳を傾け、心に接する介護やケアを行わんと努力しております。今まで創設以来積み上げてきた「高齢者のため、安心して心豊かに暮らせる施設」を、職員全員が暖かな気持ちで高齢者の人々を包み込み、さらに前進して参ります。

特色

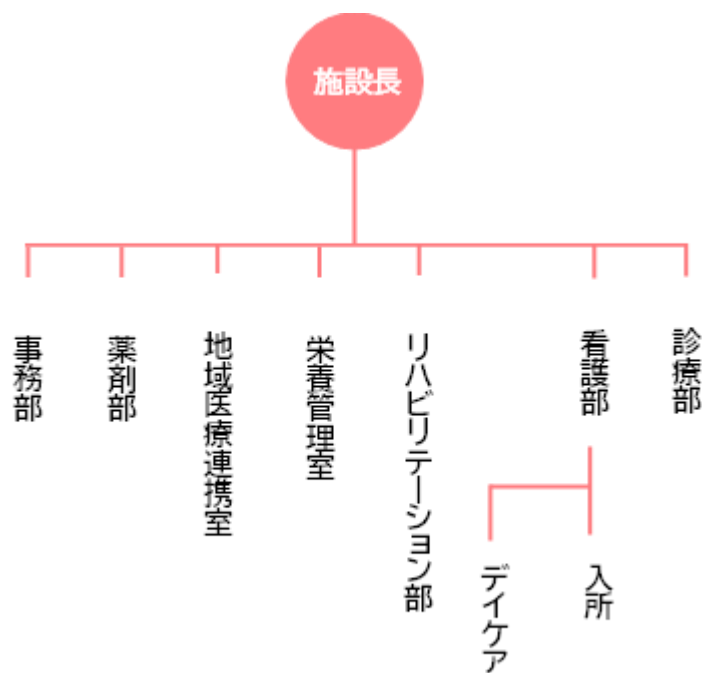
「人間としての尊厳・権利を守り、各個人の価値観や日常習慣などを尊重し、その人の立場にたった優しさと温もりのある看護・介護を提供し、一人ひとりの心に届くケアを行う」と理念に掲げ、安心して心豊かに暮らせる施設を目指しています。さらに生活に希望と喜びを感じ、自分らしい暮らし方を続けられるように在宅復帰超強化型施設として、機能維持・改善の支援を行います。

高齢者のリハビリテーションは、日常の生活動作能力を維持することが大きな目標となります。ベッドからの寝起き・更衣・トイレ動作などの生活をしていく上で必要な動作習得に向けて、リハビリ専門職と一定の時間・場所での訓練に限らず、実際の生活場面での練習をしていきます。さらに在宅復帰の実現に向けては、家庭を訪問し課題を積極的に解決していきます。

概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中3-2-5
- TEL 078-858-1180
- 創立 2001年11月1日
- 定員 入所80名/通所30名
- 室数 療養室80床(個室4室、2床室2室、4床室18床)
- 建物 地下1階地上3階 延4,024㎡
- 職員数 医師1名、看護師9名、准看護師2名、介護福祉士29名、
リハビリ専門職8名、介護支援専門員1名、社会福祉士3名、
看護助手7名、管理栄養士2名、事務5名
計67名(2023年3月31日現在)

組織図



業績実績

項目	2020年度	2021年度	2022年度
入所者数(1日平均)	77.0	76.7	66.3
通所者数(1日平均)	23.8	23.9	20.0
在宅復帰率	67.2	57.6	54.9
回転率	14.7	13.4	11.9



5. 甲南訪問看護ステーション

基本方針

- 利用者様がご自宅で自立した日常生活を送れるように支援します。
- 利用者様の権利を尊重し、利用者様との信頼関係を大切にします。
- 主治医との連携を取り利用者様が期待する、明るく・あたたかで、安心な看護サービスに努めます。
- 必要時に行政機関・福祉サービス事業者等と連絡を取り、利用者様の療養に必要な良質なサービスが提供できるよう努めます。

所長挨拶

地域包括ケアシステムの充実に向けて訪問看護への期待が高まる中、新型コロナウイルス感染症の流行で、病院や施設の面会制限により在宅療養を希望される方が増えています。訪問看護は、在宅療養の不安や苦痛を解消し「住み慣れた地域で暮らしたい」をお手伝いします。利用者様の意思決定を支える為に、ご家族、訪問医、ケアマネージャー、介護事業所、近隣の方々とも共同します。

特色

当ステーションは、甲南医療センターや六甲アイランド甲南病院、甲南介護老人保健施設と同グループで協力連携が図りやすい点が特徴です。

サービス内容は、病状の観察、薬剤管理、医療機器の管理、創傷処置などの医療的処置を加え、日常生活の相談や指導、精神的な支援、終末期看護などを行っています。

概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中2-11
- TEL 078-854-1156
- 創立 2001年10月1日
- 活動地域 神戸市東灘区・灘区・芦屋
- 営業日 月～金(土日祝、年末年始は休み) 8時30分 ～ 17時15分
- 職員数 <甲南訪問看護ステーション>
看護師10名、理学療法士3名、事務1名 計14名
<甲南居宅介護支援事業所>
ケアマネージャー3名、(事務1名) 計3名
※訪問看護兼務
合計17名(2023年3月31日現在)

6. 甲南居宅介護支援事業所

特色

当事業所は、公益財団法人甲南会を母体としており関連病院・施設からの依頼が主になります。担当エリアは六甲アイランドを中心とした東灘区です。

概要

- 所在地 神戸市東灘区向洋町中3-2-5
- TEL 078-858-1257
- 創 立 2001年11月15日
- 活動地域 六甲アイランドを中心とした神戸市東灘区
- 営業日 月～金(土日祝、年末年始は休み) 8時30分 ～ 17時15分

業績実績

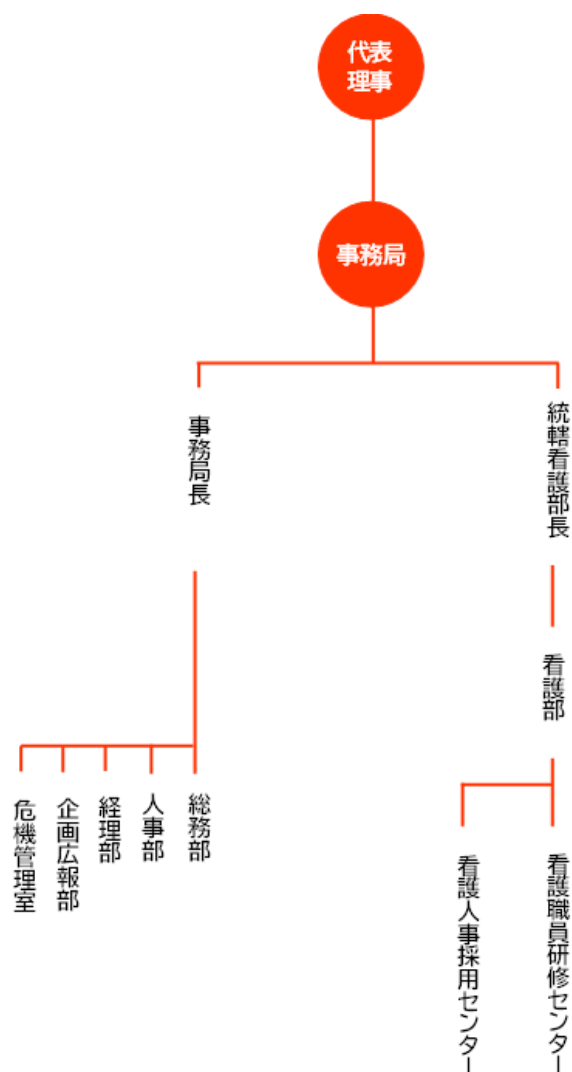
項目	2020年度	2021年度	2022年度
訪問件数	642	722	829
居宅支援件数	68	96	117

7. 事務局

概要

- 所在地 神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16 甲南医療センター内3・4階
- TEL 078-854-4072
- 職員数 事務21名、看護師4名 計25名(2023年3月31日現在)

組織図



※2023年3月末日現在

第3. 事業の概要

1. 新型コロナウイルス感染症への対応

(1)発熱・接触者外来を設置

甲南会においては、2020年2月に新型コロナウイルス感染症が『指定感染症』になった事を受けて、甲南医療センターと六甲アイランド甲南病院に、早い段階から『発熱・接触者外来』を設置し運営を開始した。

ア 甲南医療センター ※救急外来と並行して対応

年度	内容	受診者数(合計)
2020年度	発熱・接触者外来	854名
2021年度	発熱・接触者外来	670名
2022年度	発熱・接触者外来	705名

イ 六甲アイランド甲南病院

年度	内容	受診者数(合計)	内訳
2021年度	発熱・接触者外来	597名	16歳以上
2022年度	発熱・接触者外来	1,754名	小児 1,018名、16歳以上 736名

ウ 甲南加古川病院

年度	内容	受診者数(合計)
2021年度	発熱・接触者外来	55名
2022年度	発熱・接触者外来	156名

(2)集団ワクチン接種への取り組み

ア 東灘区医師会所属医療従事者向けワクチン接種の実施

2021年5月から開始された高齢者向け新型コロナワクチン接種に先立って東灘区医師会からの協力依頼を受けて医師会所属の医療従事者向け新型コロナワクチン集団接種を実施している。(2022年度は実施なし)



イ コンソーシアムの枠組みを活用した職域接種



ワクチン接種には、医師・薬剤師・看護師などの専門職を必要とし、職域接種を行うには、医療従事者や施設・設備の確保が課題となる。

そこで『東灘次世代医療人材育成コンソーシアム』の枠組みを活かし、役割分担をすることになった。

今回の職域接種では、『東灘コンソーシアムワクチン接種協議会』を結成し、それぞれの役割分担をすることで実現が可能となった。

内容	日時	場所	接種者数
第3回目接種	2022年4月20日	甲南大学 岡本キャンパス 甲友会館	123人
	2022年7月2日		
	2022年7月3日		

(3)陽性患者受け入れ病棟の開設

甲南会においては、2020年10月から甲南医療センターが新型コロナウイルス感染症陽性者専用病棟を開設し、受け入れを開始した。

その後、2021年3月からは六甲アイランド甲南病院が、続いて甲南加古川院も陽性者の受け入れを開始した。更に2022年9月から甲南医療センターが東2階病棟に14床を増床した。

ア 甲南医療センター(南1階病棟:15床)※2022年9月1日より、東2階病棟に14床増床

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 患者数	2021	4.7	5.6	3.4	4.3	6	5	2	0.2	0.5	5.8	9.7	6.3	4.4
	2022	5.2	4.6	3.5	9.7	13.3	4.3	3.1	8.0	17.3	17.7	4	0.8	7.6

イ 六甲アイランド甲南病院(7階病棟:11床)※2022年3月10日より

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 患者数	2022	1.4	6	1.1	6	9.3	2.3	2.9	4.8	6.1	6.7	0.9	0.9	4.1

ウ 甲南加古川病院(東1階病棟:10床対応)※2022年3月18日より

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均 患者数	2022	4.2	1.9	1.5	3.7	5.1	4.4	1.7	4.5	4.2	4.2	3.5	1.2	3.3

2. 東灘次世代医療人材育成コンソーシアム

(1)コンソーシアム設立の目的(2018年11月17日設立)

- ア 優れた若手医療人材を育成すること
- イ 生活習慣の改善や疾病予防活動で地域医療に貢献すること
- ウ 地域の総合力で健康を増進し、人材を育てつなぐこと



(2)これまでの活動

ア 職員派遣

連携している各施設間において、講師派遣や研修会への職員交流による知識・情報提供により、人材育成が進められている。

内容	担当	開催日	開催場所	参加対象
「職場におけるパワーハラスメントについて」 (WEB開催)	甲南大学学長 甲南大学法学部教授 中井 伊都子	2021年 5月18日	甲南医療センター 会議室ABC	甲南会職員
「疾病治療論Ⅰ」	甲南会グループ所属医師	通年	WEB開催	甲南女子大学

イ 実習生の受入

甲南会では、急性期・緩和ケア・回復期リハビリ等の診療研修を実施し、積極的に実習生の受入を行っている。また、東灘区にある3大学だけでなく、その他の地域の大学からも研修医・看護師・助産師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士の実習を受け入れ、サポートしている。

内容	担当	開催日	開催場所	参加対象
診療研修	甲南会所属の医師、看護師、コメディカル	通年	甲南医療センター	甲南女子大学 神戸薬科大学

ウ 地域住民の健康増進

コンソーシアム設立の目的の1つとして、地域住民の健康増進、地域医療の質の向上がある。その活動の一環として、市民公開講座を無料開催し、役立つ情報を提供している。(2022年度は実績なし)

3. 公益目的事業の概要

(1) 地域医療を支援する事業

ア 地域医療機関を支援する取り組み

地域で必要な医療を確保するため、地域医療機関を支援すると共に連携を図り、医療機関の機能に応じた役割分担により、地域内で患者に予防・診療・在宅まで一貫した医療を供給できる体制を構築し、地域医療全体の医療の質の向上を図る。

(ア) 患者の紹介を通じた近隣医療機関との連携

甲南会では、かかりつけ医との連携を密にし、積極的にかかりつけ医からの紹介患者を受け入れ、また入院加療が終わった患者をかかりつけ医に戻し、病状に応じて患者が最適な医療機関で診察を受けることが出来るよう努める。

(イ) 病床、医療機器、設備等の地域の医師等への開放

かかりつけ医に病床や医療機器、設備を利用提供し、甲南会の主治医と共同診療することにより、首尾一貫した良質で効率的な医療を提供できる体制を構築し、地域医療の向上を図る。利用を希望するかかりつけ医は、甲南会の登録医として登録し、必要な時に利用することができる。

(a) 共同診療

かかりつけ医から紹介された患者を開放病床で受け入れ、かかりつけ医と甲南会の担当医師が共同で診療を行う。かかりつけ医は、手術・検査に立ち会うこともできる。かかりつけ医が入院中の患者の診療を行うことで、入院中の治療内容や検査結果を知ることができ、退院後もかかりつけ医のもとで、安心して一貫した外来診療を受けることができる。

◎開放病床

甲南医療センター	5床
六甲アイランド甲南病院	5床

◎利用可能医療機器

PET-CT、CT、MRI、RI、単純レントゲン、内視鏡カメラ、心電図、超音波検査、脳波検査、神経伝達速度 等

【2022年度月別PET-CT、MRI-CT予約件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
140	151	162	126	114	161	143	165	162	135	143	160	1,762

(b) 他開放施設・サービス

◎研修会等への参加：甲南会主催の学術講習会、カンファレンス、研修会

(c) 登録医数

2023.3.31現在 234医療機関、300名の医師(東灘区、灘区、中央区、須磨区、芦屋市、西宮市) ※今後も登録医参加医療機関の増加をめざす。

(ウ)医療従事者に対する研修の実施

地域医療機関の従事者に対して、研修を実施し、医療技能専門職知識の習得を通じ医療従事者個々の医療技能向上及び地域医療全体の医療の質の向上を図る。

	研修内容	担当	開催日	開催場所	参加対象・人数
1	小児重症喘息ネットワーク講演会	小児科医師 医長 平瀬 敏志	6月28日	WEB開催	38名(医師)
2	『新型コロナウイルス感染症の感染対策～施設や在宅での対応』	感染看護認定看護師 師長 窪田 順江	7月21日	WEB開催	38名(看護師)
3	地域交流会 『地域と医療をつなげる 事例検討会 』	認知症看護認定看護師 副師長 田村 浩恵	8月24日	甲南医療センター	8名(看護師、ケアマネジャー等)
4	心臓リハビリテーション研修①	大分県臼杵市医師会立コスモス病院 副院長/医療福祉統合センター長 舩友 一洋	8月25日	WEB研修	62名(医師、看護師、ケアマネジャー等)
5	第31回血液浄化セミナー	慢性疾患看護専門看護師 米村 朋代	8月28日	WEB研修	約200名(臨床工学士、看護師、管理栄養士)
6	『8050問題～引きこもり支援の立場から～』	KHJ全国ひきこもり家族会 連合会広報担当 理事 ジャーナリスト 池上 正樹	9月14日	WEB研修	39名(医師、看護師、ケアマネジャー等)
7	『ストーマ周囲の皮膚障害～装具の選択と対処方法～』	皮膚・排泄ケア認定看護師 師長 鈴木 愛美	9月15日	WEB研修	32名(看護師)
8	第43回関西ストーマケア講習会	皮膚・排泄ケア認定看護師 松島 佳子	9月23日	西宮市立中央病院	30名(医師・看護師)
9	『成年後見制度について』基礎編	守屋司法書士事務所 司法書士 守屋 裕介	10月5日	WEB研修	35名(看護師、MSW、ケアマネジャー等)
10	健康寿命の延伸に向けた地域連携を考える講演会	整形外科 部長 笠原 孝一	10月5日	WEB研修	39名(医師等)
11	心臓リハビリテーション研修②	兵庫県立はりま姫路総合医療センター 心臓血管外科部長 リハビリテーション部長 本多 祐 先生	10月13日	WEB研修	53名(医師、看護師、ケアマネジャー等)
12	「褥瘡のアセスメント～DESIGN-R 2020～」	皮膚排泄ケア認定看護師 師長 鈴木 愛美	10月27日	WEB研修	30名(看護師)
13	心疾患患者における地域医療連携に関するミーティング	循環器内科 部長 大久保 英明	10月27日	甲南医療センター	15名(医師)
14	第12回甲南会ICLSコース	甲南会 看護部	10月29日	甲南医療センター	58名(医師、看護師等)
15	甲南医療センター救急セミナー	甲南医療センター 医師	11月2日	甲南医療センター	16名(看護師、消防隊員等)
16	「認知症とせん妄の対応」～薬剤の使用と観察について～	認知症看護認定看護師 副師長 田村 浩恵	11月10日	WEB研修	27名(看護師)
17	高齢者施設における感染対策	感染管理認定看護師 師長 窪田 順江	11月18日	セ・ラ・ヴィ	20名(看護師、介護士等)
18	下部尿路機能障害患者のケア講習会	皮膚・排泄ケア認定看護師 松島 佳子	11月19日	神戸大学附属病院	30名(医師・看護師・PT/OT・薬剤師)
19	感染対策の基本	感染管理認定看護師 師長 窪田 順江	11月24日	東灘区医師会館	東灘区医師会 医師

	研修内容	担当	開催日	開催場所	参加対象・人数
20	第1回甲南医療センター 地域連携WEBセミナー	甲南医療センター 医師	11月24日	WEB研修	12名(医師、看護師 等)
21	神戸市東部3科合同ウェブ 講 演会	甲南医療センター 内科医師	12月1日	WEB研修	35名(医師、看護師 等)
22	顔の見えるサンキューセミナー ～医療・介護の連携を目指して ～	甲南医療センター 糖尿病・内分泌・総合内科 部長 福永 薫	12月8日	スペースアルファ三 宮(ハイブリッド研 修)	31名(医師、看護師、 ケアマネジャー等)
23	心臓リハビリテーション研修③	国立循環器病研究セン ター公認臨床心理師 庵地 雄太 ひかりクリニック 院長 謝 新	12月15日	WEB開催	32名(医師、看護師、 ケアマネジャー等)
24	腹膜透析患者の看護(腹膜透析 の基礎と管理の実践)	血液浄化センター 師長 中田 裕子	12月20日	あつぱ訪問看護 ステーションZOOM	13名(看護師・ケアマ ネージャー・PT)
25	CAPD看護①	血液浄化センター 師長 中田 裕子	12月20日	甲南医療センター	13名(訪問看護師 等)
26	CAPD看護②	血液浄化センター 師長 中田 裕子	1月10日	甲南医療センター	10名(訪問看護師 等)
27	腹膜透析患者の対応について (合併症と緊急時対応、病院と の連携)	血液浄化センター 師長 中田 裕子	1月10日	あつぱ訪問看護 ステーションZOOM	9名(看護師・ケアマ ネージャー)
28	甲南医療センター 救急セミナー	甲南医療センター 医師	1月18日	甲南医療センター	19名(看護師、救急 隊員等)
29	東灘区循環器症例検討会	循環器内科 部長 大久保 英明	1月19日	WEB研修	16名(医師)
30	第2回甲南医療センター 地域連携WEBセミナー	甲南医療センター 医師	1月26日	WEB研修	10名(医師、看護師 等)
31	『成年後見制度について』 応用編	守屋司法書士事務所 司法書士 守屋 裕介	2月16日	WEB研修	28名(看護師、 MSW、ケアマネ ジャー等)
32	感染対策の基本	感染管理認定看護師 師長 窪田 順江	3月9日	東灘区医師会館	東灘区医師会 医師
33	腹膜透析地域連携学習会 ～在宅へつなぐ～	血液浄化センター 師長 中田 裕子	3月11日	甲南医療センター	19名(訪問看護師 等)
34	「知っておきたいがん疼痛の 基礎知識」	緩和ケア認定看護師 江川 亜季	3月14日	WEB研修	18名(看護師等)
35	疥癬の感染対策	感染管理認定看護師 師長 窪田 順江	3月24日	宮地病院	20名+WEB(宮地 病院 看護師、介護 士、コメディカル)

(エ) 学生に対する研修・実習生の受入

(a) 実習生の受入

将来の医師、薬剤師、助産師、看護師、理学療法士等の医療資格職を目指す近隣の大学
医学部、薬科大学、看護系大学、リハビリ系大学・専門学校等からの実習生として、医療
現場で受け入れて実践研修を行う。

【2022年度医学生受入実績】

・6年次個別実習 21 名 ・5年次関連病院実習 61 名
・BSL年次関連病院実習 26 名

(b)講師派遣

甲南会の医療専門職を医療系大学での授業、講演会での講師として派遣し、各大学における医療職の養成を支援する。

【2022年度派遣実績：診療部門】

	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
1	神戸市医師会・東灘区医師会学術集会	神戸市医師会・東灘区医師会学術講演会 座長	4月21日	循環器内科 参事 清水 宏紀
2	第一三共株式会社	地域で診る循環器診療連携webセミナー 座長	6月3日	循環器内科 参事 清水 宏紀
3	中外製薬株式会社	神戸市灘区・東灘区眼科医対象 視神経脊髄炎セミナー 講師・演者	6月8日	神経内科 診療部長 小別所 博
4	中外製薬株式会社	神戸市灘区・東灘区眼科医対象 視神経脊髄炎セミナー 講師・演者	6月8日	眼科 診療部長 石橋 一樹
5	ノバルティスファーマ株式会社	第5回小児重症喘息ネットワーク講演会 演者	6月8日	小児科 医長 平瀬 敏志
6	中外製薬株式会社	「甲南医療センターにおける肺がん診療 について」中外製薬社員研修会 講師	6月9日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
7	中外製薬株式会社	2022年KBCOGセミナー 講師・演者	6月10日	乳腺外科 副院長 高尾 信太郎
8	サノフィ株式会社	Sanofi Diabetes 1Day Webinar サテライトセッション 座長	6月10日	糖尿病・内分泌・総合内科 院長代行 山田 浩幸
9	兵庫県立淡路医療センター	兵庫ライブデモンストレーションのビデオ 収録	6月13日	循環器内科 医長 宇津 賢三
10	神戸市立医療センター中央市民病院	第2回聴覚障害児支援中核機能モデル 事業協議会	6月16日	産婦人科 副院長 森田 宏紀
11	ノボルディスクファーマ株式会社	ノボルディスクファーマ株式会社 社内勉強会 講師	6月16日	小児科 医長 中迫 正祥
12	中外製薬株式会社	20220617がんゲノム医療連携 セミナーin HYOGO ディスカッション	6月17日	腫瘍血液内科 部長 茶屋原 菜穂子
13	日本ラグビーフットボール協会	2022年度男子15人制 NDSスタッフ	6月17日 ～6月27日	整形外科 部長 高橋 完靖
14	協和キリン株式会社	「パーキンソン病治療を考えるタベ in KOBE」 演者	6月30日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
15	アムジェン株式会社	兵庫頭痛セミナー 講師	7月6日	小児科 医長 井潤 茎子
16	サノフィ株式会社	神戸地区耳鼻咽喉科医会連絡会 学術講演会・臨床セミナー 座長	7月9日	耳鼻咽喉科 部長 後藤 友佳子
17	国立大学法人 神戸大学医学部	国立大学法人神戸大学医学部 非常勤講師	7月11日 ～7月15日	眼科 診療部長 石橋 一樹
18	株式会社ツムラ	第8回神戸心不全ネットワーク 座長	7月14日	循環器内科 参事 清水 宏紀
19	日本イーライリリー株式会社	Breast Cancer Expert Meeting 2022 in Summer 講師	7月23日	乳腺外科 副院長 高尾 信太郎
20	株式会社カネカメディックス	i-EDコイル社内講演会 演者	7月27日	脳神経外科 医員 勝部 毅

	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
21	株式会社カネカメディックス	i-EDコイル社内講演会 演者	7月27日	脳神経外科 医長 田中 潤
22	日本イーライリリー株式会社	Lilly Brest Cancer Seminar in HYOGO 座長	8月3日	乳腺外科 副院長 高尾 信太郎
23	日本イーライリリー株式会社	糖尿病地域連携の会 座長	8月25日	糖尿病・内分泌・総合内科 院長代行 山田 浩幸
24	中外製薬株式会社	社内研修会「甲南医療センターにおける 乳がん診療の実際について学ぶ」 講師	8月29日	乳腺外科 副院長 高尾 信太郎
25	日本イーライリリー株式会社	Cancer Board Web セミナー 座長	8月31日	乳腺外科 副院長 高尾 信太郎
26	アストラゼネカ株式会社	「神甲喘息セミナー」 講師	8月31日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
27	ノバルティスファーマ株式会社	第9回神戸呼吸器内科勉強会 演者	9月17日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
28	神戸地方検察庁	四者連絡協議会	9月21日	小児科 副院長 太田 國隆
29	兵庫県看護協会	兵庫県看護協会 認知症看護認定看護師 教育課程 講師	9月21日 ～9月22日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
30	住友ファーマ株式会社	第164回糖尿病教育学習研究会(トップ セミナー)・第203回IIDES糖尿病研究会・ 第138回CDE兵庫県連合会研究会-合同研 究会 演題発表	9月24日	精神科 医員 加賀野井 秀和
31	田辺三菱製薬株式会社	The 5th Kobe IBD Clinical Conference 演者	9月24日	消化器内科 医員 田中 彩香
32	日本メジフィジックス株式会社	「第31回兵庫PET技術研究会」 講師	9月30日	放射線科 PETセンター長 鈴木 加代
33	第一三共株式会社	第2回兵庫県頭痛研究会 演者	10月13日	小児科 医長 井潤 茎子
34	田辺三菱製薬株式会社	Kobe IBD Consultation Meeting 演者	10月14日	消化器内科 医員 田中 彩香
35	アストラゼネカ株式会社	「第165回糖尿病教育学習研究会(トップ セミナー)、第204回IIDS糖尿病研究会、 第139回CDE兵庫県連合会の合同研究会」 座長	10月22日	糖尿病・内分泌・総合内科 院長代行 山田 浩幸
36	中外製薬株式会社	「DLBCL治療の実際について学ぶ」 講師	10月26日	腫瘍血液内科 医員 渡部 まりか
37	協和キリン株式会社	「神経疾患セミナー」 座長	11月17日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
38	日本ベーリンガーインゲル ハイム株式会社	CTD-ILDセミナー「患者への病状説明 どうしてますか??～Shared Decision Making 実現のために～」 座長	11月18日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
39	持田製薬株式会社	東灘区医師会学術講演会 座長	11月18日	循環器内科 参事 清水 宏紀
40	兵庫県看護協会	兵庫県看護協会 認知症看護認定 看護師教育課程 講師	11月22日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
41	扶桑薬品工業株式会社	透析医療を考えるin兵庫 座長	11月22日	腎臓内科 副院長 藤森 明
42	EAファーマ株式会社	376回兵庫県消化管研究会 演者	11月24日	消化器内科 部長 河原 史明
43	アストラゼネカ株式会社	「Respiratory Meeting in Hyogo」 座長	11月30日	呼吸器内科 部長 中田 恭介

	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
44	アストラゼネカ株式会社	「神戸市東部3科合同ウェブ講演会」 講師	12月1日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
45	住友ファーマ株式会社	顔が見えるサンキューセミナー ～医療・介護の連携を目指して～	12月8日	精神科 医長 加賀野井 秀和
46	ムンディファーマ株式会社	「最適なレミマゾラムの使用法を考える webセミナー」 講師	12月15日	麻酔科 部長 末原 知美
47	中外製薬株式会社	中外製薬社内研修会 講師	12月15日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
48	長崎大学病院	「UNLOST技能維持研修」	1月10日	循環器内科 部長 水谷 和郎
49	第一三共株式会社	「Breast Cancer Web Seminar in 兵庫」 演者	1月20日	乳腺外科 副院長 高尾 信太郎
50	PDRファーマ株式会社	「第11回New Clear Imaging Conference」 座長	1月21日	放射線科 PETセンター長 鈴木 加代
51	エーザイ株式会社	「Expert The Meeting Web Seminar of HALAVEN in 兵庫」 opening remarks	1月25日	乳腺外科 副院長 高尾 信太郎
52	中外製薬株式会社	社内研修会 講師	1月26日	乳腺外科 副院長 高尾 信太郎
53	三和化学研究所	糖尿病治療Up Date 2023 座長	1月26日	糖尿病・内分泌・総合内科 副院長 山田 浩幸
54	協和キリン株式会社	「神経疾患ネットワーク2023」 演者	2月2日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
55	武田薬品工業株式会社	「第61回摩耶神経カンファレンス 世話人会」 世話人	2月3日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
56	アストラゼネカ株式会社	第2回日本腎不全合併症医学会学術集会・ 総会ランチョンセミナー2 座長	2月18日	腎臓内科 副院長 藤森 明
57	扶桑薬品工業株式会社	第8回神戸透析フォーラム 座長	2月28日	腎臓内科 副院長 藤森 明
58	第一三共株式会社	Breast Cancer Web Seminar 座長	3月3日	腫瘍血液内科 部長 茶屋原 菜穂子
59	杏林製薬株式会社	「兵庫県喘息死ゼロ作戦学術講演会」 講師	3月11日	呼吸器内科 部長 中田 恭介
60	日本臓器製薬会社 神戸支店	日本臓器製薬神戸支店社内研修 講師	3月15日	整形外科 医長 佐々木 優
61	中外製薬株式会社	「Neuroimmunology Seminar in Hyogo」 ディスカッション	3月17日	脳神経内科 診療部長 小別所 博
62	第一三共株式会社	東神戸エリアの乳がん医療を考えるセミナー 座長	3月23日	乳腺外科 副院長 高尾 信太郎
63	第一三共株式会社	東神戸エリアの乳がん医療を考えるセミナー 講師	3月23日	腫瘍血液内科 部長 茶屋原 菜穂子

【2022年度派遣実績:看護部・診療部門】

	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
1	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 周産期ケア研究センター	看護師の派遣	4月27日	看護部 福島 あや
2	株式会社 大塚製薬工場	認定看護師の出務	4月28日	看護部 副看護師長 松島 佳子
3	学校法人甲南学園 甲南小学校	学校法人甲南学園 甲南小学校 修学旅行への看護師派遣	5月11日 ～5月13日	看護部 藤本 早紀
4	兵庫県看護協会	看護師の出務	5月17日	看護部 大賀 彩香
5	兵庫県看護協会	看護師の出務	5月21日	看護部 副看護部長 小西 由佳利
6	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 周産期ケア研究センター	看護師の派遣	5月25日	看護部 福島 あや
7	イグザクテック株式会社	看護師の派遣	5月29日 ～5月30日	看護部 池田 祐美、國枝 南
8	兵庫県看護協会	看護師の出務	5月31日	看護部 看護師長 三崎 修子
9	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	6月17日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
10	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	6月20日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
11	神戸女子大学	看護師の派遣	6月22日	看護部 源間 七々未
12	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 周産期ケア研究センター	看護師の派遣	6月22日	看護部 福島 あや
13	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	7月13日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
14	学校法人甲南学園 甲南小学校	学校法人甲南学園 甲南小学校 校外学習への看護師派遣	7月16日 ～7月18日	看護部 岡田 爽
15	学校法人甲南学園 甲南小学校	学校法人甲南学園 甲南小学校 校外学習への看護師派遣	7月16日 ～7月19日	看護部 辻脇 里菜
16	神戸大学附属中等教育学校	看護師の派遣	7月21日	看護部 福島 あや、川人 一展
17	コンバックジャパン株式会社	認定看護師の出務	7月23日	看護部 副看護師長 松島 佳子
18	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 周産期ケア研究センター	看護師の派遣	7月27日	看護部 福島 あや
19	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	8月3日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
20	神戸常盤大学	看護師の派遣	8月8日	看護部 神代 真友子
21	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 周産期ケア研究センター	看護師の派遣	8月24日	看護部 福島 あや
22	医療法人神戸健康共和会 ふきあいの郷	認定看護師の出務	9月1日	看護部 看護師長 鈴木 愛美

	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
23	大阪医療専門学校	臨床工学技士の外部講師	9月1日	中央臨床工学部 宮武 祐士、瀬尾 雄大、 空野 葵
24	株式会社大塚製薬工場	Web講演会の講師	9月2日	薬剤部 川真田 将貴
25	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	9月21日 ～9月22日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
26	関西ストーマケア講習会	認定看護師の出務	9月23日	看護部 副看護師長 松島 佳子
27	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 周産期ケア研究センター	看護師の派遣	9月28日	看護部 福島 あや
28	神戸大学エキスパートメディカル スタッフ育成プログラム事務局	認定看護師の出務	9月28日	看護部 看護師長 鈴木 愛美
29	神戸大学大学院	認定看護師の出務	9月28日	看護部 副看護師長 松島 佳子
30	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	9月28日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
31	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院	専門看護師の出務	10月2日	看護部 永友 舞
32	神戸大学エキスパートメディカル スタッフ育成プログラム事務局	認定看護師の出務	10月18日	看護部 看護師長 鈴木 愛美
33	神戸大学大学院	認定看護師の出務	10月18日	看護部 副看護師長 松島 佳子
34	神戸薬科大学	神戸薬科大学「実務実習事前教育(後期)」 嘱託非常勤講師出務	10月25日	薬剤部 関山 慶紀
35	神戸薬科大学	神戸薬科大学「実務実習事前教育(後期)」 嘱託非常勤講師出務	10月25日	薬剤部 上田 若奈
36	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 周産期ケア研究センター	看護師の派遣	10月26日	看護部 福島 あや
37	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 周産期ケア研究センター	看護師の派遣	11月3日	看護部 福島 あや
38	神戸薬科大学	神戸薬科大学「実務実習事前教育(後期)」 嘱託非常勤講師出務	11月8日	薬剤部 関山 慶紀
39	神戸薬科大学	神戸薬科大学「実務実習事前教育(後期)」 嘱託非常勤講師出務	11月8日	薬剤部 上田 若奈
40	神戸大学エキスパートメディカル スタッフ育成プログラム事務局	認定看護師の出務	11月9日	看護部 看護師長 鈴木 愛美
41	神戸大学大学院	認定看護師の出務	11月9日	看護部 副看護師長 松島 佳子
42	神戸薬科大学	神戸薬科大学「実務実習事前教育(後期)」 嘱託非常勤講師出務	11月18日	薬剤部 横山 優見
43	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	11月18日	看護部 看護師長 窪田 順江
44	神戸薬科大学	神戸薬科大学「実務実習事前教育(後期)」 嘱託非常勤講師出務	11月18日	薬剤部 関山 慶紀
45	神戸大学エキスパートメディカル スタッフ育成プログラム事務局	認定看護師の出務	11月19日	看護部 看護師長 鈴木 愛美
46	神戸大学大学院	認定看護師の出務	11月19日	看護部 副看護師長 松島 佳子

	派遣先	派遣内容	開催日	派遣職員
47	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	11月22日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
48	神戸薬科大学	神戸薬科大学「実務実習事前教育 (後期)」嘱託非常勤講師出務	12月1日	薬剤部 上田 若奈
49	兵庫医療大学	兵庫医療大学薬剤部・薬学共用試験 OSCE外部評価者出務	12月4日	薬剤部 副部長 君羅 加奈恵
50	甲南女子大学	認定看護師の出務	12月12日	看護部 看護師長 鈴木 愛美
51	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	12月17日～ 12月18日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
52	神戸女子大学	助産師の講師	12月17日	看護師 鳥塚 可奈子
53	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	12月17日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
54	独立行政法人国際協力機構 (JICA)	専門看護師の出務	2022年12月	看護部 永友 舞
55	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 周産期ケア研究センター	看護師の派遣	2023年 1月5日	看護部 福島 あや
56	園田女子大学	看護師の出務	1月18日	看護部 主任 川人 一展
57	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	1月24日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
58	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	1月26日～ 1月27日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
59	医療情報システム研究会	看護師の講師	2月4日	看護部 副看護部長 小西 由佳利
60	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	2月9日	看護部 副看護師長 田村 浩恵
61	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 周産期ケア研究センター	看護師の派遣	2月22日	看護部 福島 あや
62	兵庫県看護協会	認定看護師の出務	2023年2月	看護部 副看護師長 田村 浩恵
63	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 周産期ケア研究センター	看護師の派遣	3月22日	看護部 福島 あや

(オ)その他の研修

(a)救急症例検討会

近隣消防救急隊とともに救急搬送された患者のその後の経過、退院転院状況についての説明、疾患についての講義等を行い、救急隊の技量・質の向上を図る。

【2022年度開催実績】

	研修会名	開催日	開催場所	講師(指導者)	参加者・人数
1	甲南医療センター 救急セミナー	11月2日	甲南医療センター	甲南医療センター 医師	16名(看護師、消防隊員等)
2	甲南医療センター 救急セミナー	1月18日	甲南医療センター	甲南医療センター 医師	19名(看護師、救急隊員等)

(b)認知症疾患医療センター症例検討会

認知症疾患医療センターは認知症患者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活が出来るための支援の1つとして、都道府県や政令指定都市が指定する病院に設置するもので、甲南医療センターは神戸市から指定を受け、その運営を行っている。同センターにおいて、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を目指すために、地域のかかりつけ医・介護施設の医療従事者等を対象にした症例検討会を行う。

【2022年度開催実績】 ※参加費は無料

	研修会名	開催日	開催場所	講師	参加対象・人数
1	認知症地域連携拠点事業 事例検討会	8月22日	甲南医療センター	なし	医療介護関係者 9名
2	認知症地域連携拠点事業 研修会	9月14日	WEB開催	KHJ全国ひきこもり 家族会連合会広報 担当理事 ジャーナ リスト 池上正樹氏	医療介護関係者36名

(C)ICLS(Immediate Cardiac Life Support)コース

ICLSとは、医療機関の為に蘇生トレーニングのことである。甲南会の同コースは、日本救急医学認定コースとなっており、外部医療機関の医療関係者も参加可能なコースとして門戸を広げている。

【2022年度開催実績】

	研修会名	開催日	開催場所	参加者・人数
1	第11回ICLS研修会	6月18日	甲南医療センター	甲南医療センター職員15名、 六甲アイランド甲南病院職員3名
2	第12回ICLS研修会	10月29日	甲南医療センター	甲南医療センター職員13名、 甲南加古川病院職員3名、神鋼記念病院2名
3	第13回ICLS研修会	2月23日	甲南医療センター	甲南医療センター職員13名、 六甲アイランド甲南病院職員2名、 甲南加古川病院職員1名、神鋼記念病院2名



(カ)研修医の育成

診療に従事しようとする医師は、2年以上医学履修過程を置く大学附属病院または医師臨床研修指定病院において研修を受けなければならない。

臨床研修指定病院は、基幹型臨床研修病院と協力型臨床研修病院の2つに分類される。

基幹型臨床研修病院：独自に研修医を雇用し研修プログラムを実施

協力型臨床研修病院：基幹型病院の研修プログラムの一部を担う

甲南会は、2病院で臨床研修指定病院の指定を受けており、全国から幅広く研修医を募集して受け入れ、将来の地域医療を担う医師の育成に取り組む。

甲南医療センター：基幹型病院として急性期医療を通じて様々な症例に対する基本的な知識・技術を習得させるための独自プログラムを作成し、医師の育成に取り組む。

六甲アイランド甲南病院：協力型病院として、他の基幹型病院が自院での研修が難しい分野において、そのプログラムの一部を担い医師の育成にあたる。

【2022年度月別研修医数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23	23	21	21	22	22	21	21	22	20	21	23	260

(a)JMECC(Japanese Medical Emergency Care Course)コース

JMECCとは、心肺蘇生と重篤な急性疾患や病態悪化に適切に対応するための基礎を学ぶ画期的なシミュレーション・プログラムである。このプログラムは、日本救急医学会策定のICLSを基礎に日本内科学会独自の「内科救急」をプログラムに導入した講習会であり、内科専門医となる為には必修とされている。また、講習会は基幹型臨床研修病院であれば、自施設での開催が原則となっている。

甲南医療センターでは、基幹型臨床研修病院であることから2022年度より開催する運びとなった。

【2022年度開催実績】

	研修会名	開催日	開催場所	参加者・人数
1	第1回JMECC研修会	12月10日	甲南医療センター	受講生6名、指導者7名、タスク3名

イ 紹介住民の健康増進や疾病予防への取り組み

(ア)紹介患者に対する医療提供

健康相談を通じ、住民に気軽な受診を促し、特にフレイル(加齢により心身が老い衰えた状態)や健康障害への見識を高め、適切な受診行動につながるよう支援した。

【2022年度保健相談室設置実績】 ※参加費は無料

設置日 (第2金曜/月)	相談内容							合計
	身体異常	運動	フレイル 認知症	栄養	介護	薬	その他	
4月8日、5月13日、6月10日、 7月8日、8月12日、9月9日、 10月14日、11月11日、12月 9日、1月13日、2月10日、 3月10日	12	4	15	3	0	2	2	38

(イ)啓発イベント

講演会、予防体操、ヨガ、フットケア等の実践を通じ、高齢者へフレイルに対する啓発を行い住民自身の自発的な活動を支援する。

【2022年度開催実績】 ※参加費は無料

	内容	担当	開催頻度	開催場所	参加者・人数
1	腎臓病教室	医師・看護師・栄養士・ 薬剤師・MSW	年1回 (11月29日)	甲南医療センター 会議室	43名 地域の在宅患者
2	マタニティ・セミナー	助産師	月4回 (毎月2日間 午前・午後開催) 48回企画、 45回開催	甲南医療センター	1~11人/回 (計182人/年) :当院分娩予定の妊婦と パートナー(または家族)
3	オンラインセミナー 「ベビーマッサージ」	助産師	月1回 12回開催	オンライン	参加人数:2~6組/回 (計47組) :当院で分娩した母児 または産後ケアを利用 した母児
4	出前授業 「生命の尊さ」について考える	看護師・助産師	1回(7月21日)	神大附属 中等教育学校	中学1年生 120人と 教員
5	六甲アイランド住人対象 健康相談アメリカ保健室	認知症看護認定看護師 別府恵子	2回	アメリカ	2人~3人 看護師
6	フレイル予防啓発イベント	認知症看護認定看護師 別府恵子	1回	ファッション プラザサン広場	23人 看護師 社会福祉士

(ウ)健康教室

疾病予防の啓発を行い、健康増進を図る。

【2022年度開催実績】 ※参加費は無料

	内容	担当	開催日	開催場所	参加者・人数
1	腎臓病教室	医師、看護師、薬剤師、管理 栄養士	11月29日	甲南医療センター	在宅患者等43名

(エ)認知症サロン

認知症の者等(認知症の者及び軽度認知障害(MCI)の者をいう)、その家族ならびにその他の市民に対して、医療的な視点を踏まえて行う認知症に関する教育・予防・相談・交流・情報発信・普及啓発ならびに認知症の者等本人発信及び社会参加の支援であり、神戸市が指定する認知症疾患医療センターが行う診断等支援機能としての必須事業である。
認知症疾患医療センターが実施する認知症サロンで、以下のいずれかに該当するものとする。

- ・認知症の疾患教育、ケアの方法等認知症についての知識の向上に関すること
- ・認知症の運動・栄養等に関する教室等の予防に関すること
- ・認知症についての相談に関すること
- ・認知症の者及びその家族同士の交流に関すること
- ・認知症の者によるピアサポート活動に関すること
- ・認知症の者等の家族によるピアサポート活動や家族のレスパイトケアに関すること
- ・認知症に関する情報発信に関すること
- ・認知症に対する理解を得るための普及啓発に関すること
- ・その他認知症の者等及びその家族を支援するもので市長が認めるもの

【2022年度開催実績】 ※参加費は無料

	内容	開催日	開催場所	参加者・人数
1	プレ家族会	4月28日	WEB発信	地域住民
2	もの忘れおしゃべり教室「VR体験会」	9月12日～15日	甲南医療センター	地域住民・医療関係者
3	はんしん高齢者くらしのフェア参加	10月22日	コープこうべ生活文化センター	地域住民
4	MCIおしゃべり教室	9月毎週月曜日	ZOOM	MCI診断された方
5	もの忘れおしゃべり教室「VR体験会」	11月14日～18日	甲南医療センター	地域住民・医療関係者
6	もの忘れおしゃべり教室「VR体験会」	2023年 1月23日～27日	甲南医療センター	地域住民・医療介護関係者
7	もの忘れおしゃべり教室 賢い支出の見直し方 「今スグにやめたほうがいいお金の話」	1月28日	ZOOM	地域住民・医療介護関係者
8	認知症家族会	3月6日	甲南医療センター	認知症介護者
9	コグニラボ	3月20日	甲南医療センター	患者
10	もの忘れ外来だより	年2回	通信発行	患者・家族など

(オ)市民公開講座

地域住民に対する健康増進、疾病予防の為の公開講座を開催する。

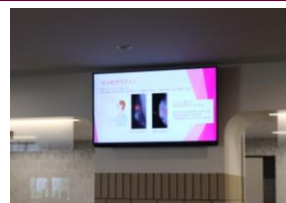
※コロナ感染症の感染拡大防止を鑑み、院内に設置したデジタルサイネージにて講座内容を放映した。

【2022年度デジタルサイネージ放映実績】

放映期間	形式	講師	タイトル
2022年4月	デジタルサイネージ	甲南医療センター 乳腺外科 岡本 明子 甲南医療センター 整形外科 笠原 孝一	乳房のしこりについて ロコモティブシンドロームの診断とその治療
2022年5月	デジタルサイネージ	甲南医療センター 乳腺外科 岡本 明子 甲南医療センター 整形外科 笠原 孝一	乳房のしこりについて ロコモティブシンドロームの診断とその治療
2022年6月	YouTube動画配信	甲南医療センター 循環器内科 水谷 和郎	笑顔で過ごせる心臓リハビリテーションのすすめ
2022年7月	デジタルサイネージ	甲南医療センター 乳腺外科 岡本 明子 甲南医療センター 整形外科 笠原 孝一	乳房のしこりについて ロコモティブシンドロームの診断とその治療
2022年8月	YouTube動画配信	甲南医療センター 循環器内科 水谷 和郎	笑顔で過ごせる心臓リハビリテーションのすすめ
2022年9月	デジタルサイネージ	甲南医療センター 乳腺外科 岡本 明子 甲南医療センター 整形外科 笠原 孝一	乳房のしこりについて ロコモティブシンドロームの診断とその治療
2022年10月	YouTube動画配信	甲南医療センター 循環器内科 水谷 和郎	笑顔で過ごせる心臓リハビリテーションのすすめ
2022年11月	デジタルサイネージ	甲南医療センター 乳腺外科 岡本 明子 甲南医療センター 整形外科 笠原 孝一	乳房のしこりについて ロコモティブシンドロームの診断とその治療
2022年12月	YouTube動画配信	甲南医療センター 循環器内科 水谷 和郎	笑顔で過ごせる心臓リハビリテーションのすすめ
2023年1月	デジタルサイネージ	甲南医療センター 乳腺外科 岡本 明子 甲南医療センター 整形外科 笠原 孝一	乳房のしこりについて ロコモティブシンドロームの診断とその治療
2023年2月	YouTube動画配信	甲南医療センター 産婦人科 森田 宏紀	・新生児聴覚スクリーニング検査の話 ・子宮筋腫の話 ・子宮体癌の話
2023年3月	デジタルサイネージ	甲南医療センター 乳腺外科 岡本 明子 甲南医療センター 整形外科 笠原 孝一	乳房のしこりについて ロコモティブシンドロームの診断とその治療

上記に記載した事業内容は、第3次医療法改正により創設された「地域医療支援病院」の医療機能区分と重なるものである。

※甲南医療センターは、2020年7月に兵庫県より「地域医療支援病院名称承認」を受けた。



(カ)妊婦向けセミナー

妊娠中の食生活や歯の健康、妊娠を楽しむ工夫、妊娠体操、出産準備品の紹介、お産の経過や過ごし方についての啓発活動等を行う。

【2022年度開催実績】 ※参加費は無料

	内容	運営	開催日	開催場所	参加者・人数
1	オンラインセミナー 「ベビーマッサージ」	助産師	4月16日、5月21日、6月18日 7月30日、8月20日、9月17日 10月15日、11月19日、12月17日 1月21日、2月18日、3月18日	甲南医療センター	2～6組/回 (計47組/年) 当院で分娩した母児または 産後ケアを利用した母児
2	マタニティセミナー	助産師	4月9日、4月23日、5月14日 5月28日、6月11日、6月25日 7月9日、7月30日、8月13日 8月27日、9月10日、9月24日 10月8日、10月22日、11月12日 11月26日、12月10日、12月24日 1月14日、1月28日、2月11日 2月25日、3月11日、3月25日	甲南医療センター	1～11名/回 (計182名/年) 当院分娩予定妊婦と パートナー

(キ)紹介患者に対する医療提供

地域のかかりつけ医から紹介のあった患者さんに対して、積極的に医療の提供を行い、治療後は、元のかかりつけ医へ逆紹介を行うことで、患者さんの治療とその後の療養へのスムーズな転換が可能となる。

【2022年度紹介率・逆紹介率実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
紹介 患者数	920	943	967	876	863	949	915	943	1,045	928	889	1,088	11,326 (合計)
紹介率 (%)	81.1	79.4	79.9	74.4	74.5	78.3	77.5	79.1	84.4	81.5	81.6	78.4	79.2% (平均)
逆紹介 患者数	1,196	1,159	1,306	1,108	1,026	1,145	1,126	1,159	1,361	1,453	1,430	1,564	15,033 (合計)
逆紹介率 (%)	105.4	97.3	107.9	94.1	88.6	94.5	95.4	97.7	109.5	127.6	131.6	112.7	105.1% (平均)

(2)地域完結型医療を推進する事業

ア 兵庫県保健医療計画に基づく「5疾病5事業及び在宅医療」に対する取り組み

兵庫県は、急速な少子高齢化、医師の地域偏在、診療科偏在、疾病構造の変化など、保健医療を取り巻く状況の変化を踏まえ保健医療計画をまとめており、その中で地域の実情に応じて適切な医療連携を構築することが必要な項目を「5疾病5事業及び在宅医療」として定めている。その中には、小児、周産期等、採算性の観点や医療人材確保の問題から、神戸医療圏においても民間医療機関の撤退が続く分野も含まれている。

甲南医療センター及び六甲アイランド甲南病院においては、この「5疾病5事業及び在宅医療」(へき地医療は除く)を中心とした医療全般の提供に取り組みつつ、地域医療連携の要となつて、地域完結型医療を推進する取り組みを行った。

(ア)救急医療

救急医療は、社会環境、疾病構造の変化等と密接に連携しており、近年、需要と重要性が高まっている。一方で、救急医療に参加する医療機関は、減少傾向にあり、拡大していく救急医療の必要に応え、救急体制を強化した。

【2022年度月別救急受入件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
救急搬送 件数	471	481	428	493	463	520	489	500	704	554	519	558	515
ウォーク イン	544	638	451	715	631	612	546	507	592	555	412	427	553

神戸市二次救急病院協議会の休日・夜間救急医療輪番制に参加して、内科・外科等の基本診療科の他、循環器、脳疾患、整形外科、小児科等、他の病院では対応できない診療科目においても積極的に対応する。また、断らない救急を徹底し、地域中核病院として中心的な役割を果たすことを目指した。

甲南会の2病院(甲南医療センター・六甲アイランド甲南病院)で連携し、24時間365日ほぼ全診療科の受入を可能とした。

【2022年度神戸市二次救急病院協議会 休日・夜間救急医療輪番対応実績数】

	内科	外科	循環器	脳疾患	整形外科	小児科	合計
4月	7	2	9	5	2	8	33
5月	8	0	9	5	1	9	32
6月	7	2	8	6	2	8	33
7月	8	0	9	6	2	8	33
8月	8	2	9	5	2	9	35
9月	8	2	8	6	2	7	33
10月	7	2	8	5	2	9	33
11月	8	1	7	6	2	8	32
12月	8	2	7	6	3	9	35
1月	7	2	10	5	2	6	32
2月	7	1	6	5	2	7	28
3月	7	2	7	6	3	8	33
合計	90	18	97	66	25	96	392

(イ)母子医療(小児・周産期医療)

少子化社会においては、分娩数、子供の数は減少傾向にある。しかし、核家族化による親の育児不安と大切に子供を育てたいという意識の強まりにより、小児科受診及び救急のニーズは高まっている。また、周産期医療においても、出産年齢の高齢化、低出生体重児の増加で対象者リスクが増し、訴訟リスクが高まっている。それにより、小児科医・産婦人科医は長時間の拘束・過重労働を余儀なくされ、その結果、志望医師の減少、民間の医療機関のこの分野からの撤退を招いている。神戸市でも東灘区、灘区に小児の入院できる病院は甲南医療センター以外にはなくなった。

この現状の中、甲南会は、地域の母子医療を守り、支えていくことを目指した。

甲南会小児科医療は、神戸・三田小児医療連携圏域の小児二次医療機能を担い、24時間365日入院医療を要する小児救急に対応する「小児地域医療センター」に指定されており、圏域の小児医療の中核病院としての機能を担った。

【2022年度小児科救急受診患者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間外患者数	47	60	32	83	75	70	59	52	74	69	68	46	735
時間外入院	20	24	15	23	21	29	23	29	29	29	34	27	303

圏域の周産期母子医療センターと協力して、ハイリスク妊産婦またはハイリスク新生児に対して、二次救急を行う「協力病院」として指定されており、公的医療機関と連携しながら、ハイリスク周産期医療に対応した。

【2022年度産婦人科救急受診患者数 ()内は妊婦】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11 (9)	17 (14)	9 (8)	14 (12)	17 (13)	17 (14)	11 (7)	10 (7)	21 (17)	12 (12)	2 (2)	16 (12)	157 (127)

出産後24時間以内に小児科の診察を行う等、産科と小児科が一体となって、新生児のケアにあたり、新生児から小児期まで切れ目のない診療体制を構築し、ハイリスク新生児の対応にあたる。

(ウ)災害医療

甲南医療センターは、地震・津波・台風等の災害発生時に、災害医療を行う医療機関を支援する「災害対応病院」として神戸市から指定されており、災害時医療を担っていく下記の体制を構築した。

(a)災害時の対応

- ・被災地の傷病者等の患者の受入及び治療を行う。
- ・市の災害対策本部が設置する救護所に対し、備蓄医薬品や衛生資材等を提供する。
- ・DMATやその他救護班の受入および市が設置する救護所に対し必要な医療活動を実施する。

(b)平常時の対応

- ・医薬品、衛生資材等の備蓄および対応資機材を整備する。
- ・市が実施する防火訓練、研修会へ参加する。
- ・市が設置する神戸市地域災害救急医療対策会議へ参加する。

【2022年度自衛消防訓練実績】

	内容	開催日	開催場所	参加者・人数
1	防火訓練	4月8日 16時～17時	甲南医療センター 東2階病棟	医師・看護師・コメディカル・ 事務職含む 40名
2	防火訓練・防災訓練	3月23日 16時～17時	甲南医療センター 東2階病棟	医師・看護師・コメディカル・ 事務職含む 15名

(工)重点疾病対策

兵庫県は、県民の健康の保持を図るために広範かつ継続的な医療の提供が必要な、がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患を5疾病として、医療供給体制の構築を計画している。甲南会では、この5疾病に対して、地域医療の中核病院として医療資源を投入し、重点的に取り組んだ。

(a)がん対策

- ・消化器病センターを設けて、食道から直腸肛門までの、消化管及び肝胆膵領域の消化器系がんに対応するとともに、その他のがん全般にも対応した。
- ・PETセンターを設けて、早期がん細胞の発見に努めた。
- ・緩和ケア病棟を設けて痛みなどの症状コントロール中心の終末期医療を行った。
- ・がん予防対策の1つとして、喫煙の健康への影響に関して啓発活動に努め、六甲アイランド甲南病院では、専門外来を設け、保険適用で禁煙指導を行った

【2022年度緩和ケア病棟運用実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均患者数	20.2	17.9	17.0	18.0	15.1	18.0	16.2	13.5	13.1	15.2	17.6	17.7	16.6
在宅等への復帰率(%)	47.4	38.5	37.9	46.9	51.5	32.4	43.3	41.9	48.5	32.1	48.6	47.5	43.0

(b)脳卒中・脳血管疾患対策

- ・急性期血行再建術に取り組み、脳神経内科および救急科と密な連携を図り、救急患者を受け入れた。

【2022年度脳外科救急受入件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
時間外患者数	18	21	25	35	20	26	28	23	22	29	20	27	24.5
休日夜間初診	15	13	18	31	13	16	24	22	14	20	12	18	18

- ・六甲アイランド甲南病院にある回復期リハビリテーション病棟(60床)にて、回復期の患者を受け入れ、医学的、社会的、心理的にサポートを行い、日常生活動作の改善を図り家庭復帰を支援した。

【2022年度六甲アイランド甲南病院回復期リハビリテーション病棟実績】

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均患者数	2021	56.7	48.8	55.6	55.2	55.5	53.0	51.7	54.7	55.8	57.0	55.7	57.4	54.7
在宅復帰率(%)	2021	80.0	73.5	81.0	82.4	82.6	84.1	83.7	90.8	91.6	92.3	93.9	93.7	85.8

(c)心血管疾患対策

- ・急性期血行再建術に取り組み、脳神経内科および救急科と密な連携を図り、救急患者を受け入れた。
- ・入院病棟内に心臓リハビリテーション室を設け、入院患者数が無理なくリハビリに取り組みやすくなった。

【2022年度IVR件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
177	175	166	152	129	165	183	149	145	148	167	170	1,926

(d)糖尿病対策

- ・糖尿病センターを設け、患者教育、CSII、CGM、周産期管理、妊娠糖尿病の血糖管理を積極的に取り組み、地域の糖尿病患者診療を支えた。
- ・複数の診療科、看護師、薬剤師、栄養士等の複数の職種のスタッフが協力し、チーム医療として血糖コントロール、合併症検査・治療、患者教育指導にあたった。

【2022年度糖尿病療養指導件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
51	54	57	43	56	48	54	52	62	55	50	56	638

(e)精神疾患・認知症疾患対策

認知症疾患医療センターでは、地域の保健医療・介護機関などと連携を図りながら認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、周辺症状と身体合併症の急性期治療に関する対応、専門治療相談などを実施することにより、認知症疾患患者とその家族が住み慣れた地域で安心して過ごすための支援を行った。

イ 無料低額診療事業

甲南医療センター、六甲アイランド甲南病院の患者を対象に、経済的事由から診療が困難な患者の、保険診療自己負担分の一部または全額免除を行いました。治療費の免除にあたっては、「施療・減額患者取扱規程」に基づき、公正な運営を行っています。

(単位:円)

			甲南医療センター	六甲アイランド 甲南病院	甲南加古川病院	合計
診療報酬	診療報酬	外来	279,057,643	81,738,620	80,519,360	441,315,623
		入院	291,520	0	6,288,130	6,579,650
		合計	279,349,163	81,738,620	86,807,490	447,895,273
	減額金額	外来	28,478,391	8,278,488	8,683,650	45,440,529
		入院	65,020	0	1,236,430	1,301,450
		合計	28,543,411	8,278,488	9,920,080	46,741,979
	減額率(%)		10.2%	10.1%	11.4%	10.4%
取扱患者数	取扱患者数	外来	203,200	72,062	39,510	314,772
		入院	134,880	57,823	33,637	226,340
		合計	338,080	129,885	73,147	541,112
	減額患者数	外来	31,848	11,853	6,791	50,492
		入院	1,980	2,519	1,030	5,529
		合計	33,828	14,372	7,821	56,021
	減額率(%)		10.0%	11.0%	10.6%	10.3%

上記「取扱患者数」は、地方税法第348条第2項第10号の適用により、公益目的事業の用に供している固定資産の固定資産税等非課税適用割合に適用されます(10%以上の場合は全額非課税適用)。

4. 2022年度決算概況（別紙「決算概況表」参照）

(1) 甲南会全体概況

①地域医療機関としての役割

甲南会は、2020年4月1日に公益財団法人に法人格を移行しており、同年7月には地域医療支援病院となった甲南医療センターを基幹病院として、六甲アイランド甲南病院、甲南加古川病院、甲南介護老人保健施設、甲南訪問看護ステーション(甲南居宅介護支援事業所を含む)の3病院・2施設が公益性と地域医療の継続を重視し、地域関係機関とも連携し、医療・福祉の向上に努め寄与しております。

②甲南医療センター増改築工事

厚生労働省では団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年を目途に地域医療構想(2025年モデル)の実現等に取り組んでおりますが、2025年以降も少子高齢化の進展が見込まれるなか、更なる人口減に伴う医療人材の不足、医療従事者の働き方改革といった新たな課題への対応を必要とし、また2040年の医療提供体制を見据えた対応を整理し、地域医療構想の実現等だけでなく、医師・医療従事者の働き方改革の推進、実効性のある医師偏在対策の着実な推進も必要とされております。

甲南会では、このような経営環境も見据え、創立以来82年を経過し老朽化した甲南病院の建替を視野に2014年度より「甲南会病床再編プロジェクト」を立ち上げ、2016年2月にはこれを『甲南病院・六甲アイランド甲南病院総合ビジョン「新病院建設基本計画(K20計画)」』としてまとめあげ、その具体策として2015年8月からの準備工事(旧施設の解体工事等)を経て、2017年3月より甲南病院の建替工事に着手致しました。しかし甲南病院の立地場所は風致地区であること、またその立地が丘陵地であることに起因し難工事となりましたが、2019年6月末には第1期工事を終え、同年10月から六甲アイランド甲南病院との医療機能再編を行いつつ神戸市東部の基幹病院として、343床稼働(380床届出)、29診療科の急性期医療に特化とし、名称を甲南医療センターに改称し新たなスタートを切りました。また一方で六甲アイランド甲南病院は198床のリハビリテーション中心の回復期医療に特化した病院に機能転換しております。

その後、甲南医療センター増改築工事は第2期工事に着手、2022年1月末には同工事を終え2月27日にはグランドオープン。最終工事を終え2022年7月末にすべての増改築工事は準備工事を含め7年を要し完工致しました。

③収支概要

当年度収支は、2020年からの新型コロナウイルス感染症蔓延により全国の医療機関が引き続き甚大な影響を受けているなか、コロナ対応補助金収入額2,970百万円を含む運営補助金収入合計3,230百万円の計上もあり、経常収支はプラス2,225百万円を計上(対前年度比1,328百万円増加)致しました。

その内訳として入院診療収益は、コロナ感染症の影響を受け一部施設で一定期間入院制限を行った期間があったこともあり入院患者数が一日あたり17人減少したものの、診療単価が患者1名1日あたり4,722円上昇したことにより前年度比488百万円増の13,582百万円となりました。また外来診療収益は、患者数が一日あたり10人増加、診療単価が患者1名1日あたり262円上昇したことにより前年度比139百万円増の4,832百万円となり、室料差額その他医業収益を含めた医業収入総額では前年度比553百万円増の19,175百万円を計上致しました。

一方、医業費用(事業費及び管理費、以下同じ)は、光熱水費料金の値上げによる影響(対前年度比179百万円増)、甲南医療センター増改築部分の減価償却費の増加(378百万円)を含め、材料費で前年度比252百万円、給与費で275百万円、委託費で44百万円、設備関係費で389百万円(減価償却費の増加を含む)とそれぞれ増加となり、その他の費用を含めた医業費用総額で前年度比1,222百万円増の20,243百万円となり、その結果、医業収支は前年度比668百万円悪化のマイナス1,068百万円となりました。

なお、前々年度、前年度に引き続き、今年度は医業外収入として新型コロナウィルス感染症対策関連運営補助金2,970百万円(運営補助金・施設補助金収入3,238百万円)を受け入れております。

④正味財産

上記2022年度収支の結果、正味財産は前年度比2,232百万円増の5,027百万円となりました。

⑤キャッシュ・フロー

2022年度キャッシュ・フローは、運営補助金・施設補助金収入(キャッシュ・フローベース2,860百万円)を含む「事業活動によるキャッシュ・フロー」は前年度に引き続き堅調に推移し、3,853百万円のキャッシュ・インとなり、一方「投資活動によるキャッシュ・フロー」は甲南医療センター増改築工事代金の支払いを主因として3,833百万円のキャッシュ・アウト、また「財務活動によるキャッシュ・フロー」は甲南医療センター増改築工事代金支払に係る資金の借入額3,174百万円、同約定返済額2,534百万円と短期借入金の一部返済750百万円による増減等により差引187百万円のキャッシュ・アウトとなり、2022年度の「現金及び現金同等物の増減」はマイナス167百万円となりました。

(2) 各施設収支概況

①甲南医療センター

2019年10月に六甲アイランド甲南病院との間で行った医療機能の再編により入院病床343床の稼働となった甲南医療センターは、その後の東館(旧新館)の改修等により2023年3月末時点稼働病床数は461床となっております。また、2020年度7月には兵庫県より地域医療支援病院の承認を得ており、2022年度の紹介率は79%(前年度実績76%)、逆紹介率は105%(同98%)となっております。

なお、2020年3月に神戸市内で初めて発生が確認されて以来猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症への対応として、発熱・接触者外来の開設、面会制限から面会禁止への変更等患者並びに職員への感染防止対策を強化し、その後同年9月には兵庫県より「新型コロナウイルス感染症協力医療機関」、翌2021年2月には「同、重点医療機関」の指定を受け、同陽性患者並びに疑陽性患者の治療にあたりつつ不断の救急医療にも取り組み、2022年度救急搬送受入件数6,104件(前年度実績4,959件)となっております。

上記の経営環境において、甲南医療センターの今年度経常収支はプラス1,110百万円(対前年度比286百万円増)となりました。

その内訳として、入院診療収益は患者数が一日あたり21名増加、また診療単価が患者1名1日あたり2,258円上昇したことにより前年度比863百万円増の9,314百万円となりました。また外来診療収益は、患者数が一日あたり38名増加、また診療単価が患者1名1日あたり156円上昇したことにより前年度比196百万円増の3,369百万円。室料差額・その他医業収入等を含めた医業収入総額では前年度比889百万円増の13,013百万円の計上となりました。

一方、医業費用は光熱水費料金の値上げによる影響(113百万円増)、甲南医療センター増改築部分の減価償却費の増加(378百万円)を含め前年度比1,233百万円増の13,721百万円となり、医業収支は前年度比343百万円悪化のマイナス708百万円となりました。

②六甲アイランド甲南病院

2019年10月に甲南医療センターとの間で行った医療機能の再編により、入院病床198床の稼働となった六甲アイランド甲南病院は、同月より2階をリハビリテーションセンターに、5階と6階を回復期リハビリテーション病棟に改修する工事に入り、2020年3月末には同工事完成となり、その後、同年9月に急性期一般(10対1)病棟が1個病床34床、地域包括ケア病棟が3個病床104床、回復期リハビリテーション病棟1個病床60床として入院医療を提供してあります。

なお新型コロナウイルス感染症への対応として、2022年3月には兵庫県より「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、同陽性患者の治療にあたっております。

上記の経営環境において、六甲アイランド甲南病院の今年度経常収支はプラス558百万円(対前年度比553百万円増)となりました。

その内訳として、入院診療収益は診療単価が患者1名1日あたり1,184円上昇したものの、入院患者数はコロナ感染症の影響により一定期間入院制限を行った影響により一日あたり24名減少したことが要因となり前年度比272百万円減の2,205百万円となりました。また外来診療収益も診療単価が患者1名1日あたり345円上昇したものの、一日当たりの患者数が21名減したことが要因となり前年度比32百万円減の856百万円。室料差額その他医業収入を含めた医業収入総額では前年度比306百万円減の3,299百万円の計上となりました。

一方、医業費用は前年度比164百万円減の3,476百万円となり、医業収支は医療収入の減少もあり前年度比141百万円悪化のマイナス177百万円となりました。

③甲南加古川病院

甲南加古川病院では、新型コロナウイルス感染症への対応として、2022年3月には兵庫県より「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、同陽性患者の治療にあたっております。

上記の経営環境において、甲南加古川病院の当年度経常収支は536百万円(対前年度比563百万円増)となりました。

その内訳として、入院診療収益は患者数が一日あたり14名減少、一方で手術収入の増加を主因として診療単価が患者1名1日あたり8,238円上昇したことにより前年度比46百万円増の1,616百万円となりました。また外来診療収益は、患者数が一日あたり5名の減少、また診療単価も患者1名1日あたり120円下降したことにより前年度比24百万円減の606百万円となりが、室料差額その他医業収入を含めた医業収入総額では前年度比25百万円増の2,275百万円の計上となりました。

一方、医業費用は前年度比122百万円増の2,406百万円の計上となり、医業収支は前年度比96百万円悪化のマイナス131百万円となりました。

④甲南介護老人保健施設

甲南介護老人保健施設の当年度経常収支はマイナス42百万円(対前年度比74百万円の減)、医業収支はマイナス76百万円(対前年度比94百万円悪化)となりました。

この減益は、コロナ感染による入所者受入制限を主因とする入所者数の減少(一日当たり対前年度比11名減の66名)及び通所者の減少(一日当たり対前年度比4名減の20名)により大幅な医業収入の減(対前年度比72百万円の減)となったことに加え、人件費・設備費増による医業費用の増加(対前年度比22百万円の増)が大きな要因となりました。

⑤甲南訪問看護ステーション

甲南訪問看護ステーションの当年度経常収支は訪問件数増加等により25百万円(対前年度比9百万円の増)、医業収支は25百万円(対前年度比8百万円の増)の計上となりました。

5. 附属明細書

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はございません。

【決算概況表】

【財産の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
適用会計基準		病院会計基準		公益会計基準		
【資産の部】						
流動資産		4,089	3,541	5,877	7,630	8,266
固定資産		10,867	23,587	26,117	25,328	26,522
	有形固定資産	(10,557)	(22,501)			
	無形固定資産	(94)	(104)			
	その他の資産	(215)	(981)			
	基本財産			(8,580)	(8,400)	(14,886)
	特定資産			(333)	(329)	(2)
	その他の固定資産			(17,203)	(16,599)	(11,633)
	土地(うち書き、以下同じ)	(2,253)	(2,260)	(2,260)	(2,260)	(2,260)
	借地権	(92)	(92)	(1,122)	(1,122)	(1,856)
	建物・構築物	(13,604)	(15,801)	(16,095)	(16,129)	(27,930)
	建設仮勘定	(4,755)	(9,435)	(10,600)	(10,628)	(12)
	医療器械備品	(4,015)	(7,274)	(7,512)	(7,338)	(7,329)
	償却累計額	(△14,643)	(△14,123)	(△14,423)	(△15,075)	(△16,626)
資産 合計		14,957	27,128	31,994	32,959	34,788
【負債の部】						
流動負債		5,127	4,369	5,118	7,674	5,712
固定負債		8,503	21,812	24,958	22,489	24,049
	短期借入金	(120)	(120)	(1,500)	(1,500)	(750)
	長期借入金(一年内返済額を含む)	(9,437)	(19,222)	(22,495)	(22,022)	(22,661)
負債 合計		13,631	26,181	30,077	30,164	29,761
【純資産・正味財産の部】						
純資産額		1,326	946			
正味財産				1,917	2,794	5,027
	指定正味財産			(1,478)	(1,476)	(1,502)
	一般正味財産			(438)	(1,318)	(3,524)
純資産・正味財産 合計		1,326	946	1,917	2,794	5,057

【収支の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
適用会計基準			病院会計基準		公益会計基準		
経常収入			15,265	16,361	18,199	20,362	22,710
	医業収入		14,957	16,005	17,509	18,621	19,175
		入院診療収入	(9,691)	(10,395)	(12,429)	(13,094)	(13,582)
		外来診療収入	(3,869)	(4,153)	(4,300)	(4,692)	(4,832)
		老人保健施設収入	(490)	(500)	(494)	(506)	(437)
		訪問看護収入等	(94)	(115)	(132)	(149)	(169)
	賃料収入等(公益法人会計基準により計上範囲変更)		218	254	128	129	129
	運営補助金・施設補助金収入		38	41	306	1,443	3,238
	寄附金収入		17	4	147	41	36
	その他の収入		33	54	107	126	130
経常費用			14,706	16,665	18,328	19,465	20,485
	医業費用		(14,383)	(16,208)			
	医業外費用		(322)	(456)			
	事業費				(18,074)	(19,395)	(20,421)
	管理費(2021年度～本部経費配賦基準見直し)				(254)	(69)	(63)
		材料費	(2,849)	(3,187)	(3,484)	(3,948)	(4,201)
		給与費	(8,007)	(8,595)	(9,378)	(9,627)	(9,902)
		委託費	(1,028)	(1,211)	(1,412)	(1,488)	(1,532)
		設備関係費	(862)	(1,369)	(1,795)	(1,979)	(2,368)
		研究研修費	(35)	(29)	(22)	(27)	(30)
		本部費	(313)	(255)	(公益法人会計基準適用により給与費等に計上)		
		その他医業関係費用	(1,287)	(1,560)	(1,722)	(1,950)	(2,208)
		医業外費用	—	—	(513)	(444)	(241)
経常収支			559	(△304)	(△128)	897	2,225
(医業収支)			(573)	(△203)	(△305)	(△399)	(△1,068)
経常外収入			4	6	13	7	1
経常外費用			96	55	243	1	1
税引前純利益・一般正味財産増減			466	(△352)	(△358)	902	2,226
法人税等			29	26	13	23	19
当期純利益・一般正味財産増減			437	(△379)	(△371)	879	2,206

【キャッシュ・フローの状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事業活動によるキャッシュ・フロー	不 作 成		△823	2,341	3,853
投資活動によるキャッシュ・フロー			△3,004	△401	△3,833
財務活動によるキャッシュ・フロー			4,608	△511	△187
現金及び現金同等物の増減	457	538	780	1,428	△167

【施設別収支の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
甲南医療センター	医業収入	5,937	8,207	11,004	12,123	13,013
	(入院診療収入)	(3,756)	(5,505)	(7,724)	(8,451)	(9,314)
	[入院患者数<人:1日平均>]	218	206	310	315	336
	[入院単価(円)]	46,500	48,920	68,360	73,582	75,840
	(外来診療収入)	(1,769)	(2,246)	(2,803)	(3,172)	(3,369)
	[外来患者数<人:1日平均>]	539	530	714	798	836
	[外来単価(円)]	13,618	13,681	16,154	16,425	16,582
	医業費用	5,632	8,575	11,451	12,488	13,721
	医業収支	305	△367	△447	△364	△708
	医業外収支(補助金を除く)	△31	△106	△154	△201	6
	補助金収入	12	22	275	1,390	1,812
	経常収支	286	△451	△326	823	1,110
六甲アイランド甲南病院	医業収入	6,404	5,004	3,674	3,606	3,299
	(入院診療収益)	(4,426)	(3,328)	(2,431)	(2,478)	(2,205)
	[入院患者数<人:1日平均>]	208	216	175	179	154
	[入院単価(円)]	51,829	56,229	38,072	37,968	39,152
	(外来診療収益)	(1,610)	(1,362)	(897)	(889)	(856)
	[外来患者数<人:1日平均>]	547	569	344	318	296
	[外来単価(円)]	11,423	11,604	11,194	11,538	11,883
	医業費用	6,156	4,985	3,649	3,641	3,476
	医業収支	249	18	25	△35	△177
	医業外収支(補助金を除く)	△38	△61	△121	2	6
	補助金収入	23	18	20	37	729
	経常収支	234	△23	△75	5	558
甲南加古川病院	医業収入	2,019	2,176	2,212	2,249	2,275
	(入院診療収益)	(1,508)	(1,561)	(1,565)	(1,570)	(1,616)
	[入院患者数<人:1日平均>]	101	103	103	104	89
	[入院単価(円)]	41,387	40,191	41,836	41,434	49,672
	(外来診療収益)	(489)	(580)	(599)	(630)	(606)
	[外来患者数<人:1日平均>]	159	177	172	168	162
	[外来単価(円)]	11,215	11,348	14,349	15,460	15,340
	医業費用	2,025	2,097	2,172	2,283	2,406
	医業収支	△5	78	39	△34	△131
	医業外収支(補助金を除く)	△15	△12	△9	△4	△2
	補助金収入	0	1	2	11	670
	経常収支	△18	66	33	△27	536

【施設別収支の状況】

(単位:百万円(単位未満切捨))

事業年度			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
甲南介護老人保健施設	医業収入		499	509	503	517	445
		(老人保健施設収益)	(490)	(500)	(494)	(506)	(437)
		[入所患者数<人:1日平均>]	77	78	77	77	66
		[入所単価(円)]	14,399	14,890	15,278	15,710	15,722
		[通所患者数<人:1日平均>]	23	26	25	24	20
		[通所単価(円)]	10,665	10,521	10,599	11,320	10,457
	医業費用		486	464	458	499	522
	医業収支		13	45	44	18	△76
	医業外収支(補助金を除く)		8	8	9	10	9
	補助金収入		1	0	4	4	24
	経常収支		22	54	59	32	△42
甲南訪問看護ステーション	医業収入		94	107	115	124	141
		(訪問看護収入)	(38)	(54)	(58)	(65)	(81)
		(メディケア収入)	(47)	(46)	(46)	(46)	(46)
		(居宅介護支援収入)	(8)	(6)	(9)	(12)	(14)
	医業費用		83	84	90	108	116
	医業収支		10	22	24	16	25
	医業外収支(補助金を除く)		0	0	0	0	0
	補助金収入		0	0	1	0	0
	経常収支		11	22	25	16	25

【設備投資の状況(当年度<10万円以上>)]

(単位:百万円(単位未満切捨))

資産区分	内容	金額	補足事項／設置場所等	
借地権（注）	甲南医療センター増改築工事 （2022年7月末完了）	734	734	全工事期間計上総額 （2016～2022年度）
建物		6,033	9,206	
建物附属設備		5,318	5,816	
構築物		457	471	
建物附属設備	情報システムインフラ整備	40	甲南医療センター	
医療機器	全身用X線CT装置 Aquilion	45	六甲アイランド甲南病院	

(注)借地への造成工事支出額(法人税法基本通達7-3-8(2))